

第3章 プロジェクトの内容



第3章 プロジェクトの内容

3-1 プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、看護学生の増加および、看護教育の格上計画に対応するべく看護大学の施設を拡充し、看護教育に必要な機材を提供することによって「ミ」国における看護教育の質を向上させ、同国の保健医療の水準を高めることにある。

3-2 プロジェクトの基本構想

3-2-1 協力の方針

「ミ」国政府より提出された要請書および事前調査によれば、本計画は看護大学における看護学生数の増加に対応するための学生寮・教室棟の建設、看護教育機材の供与および既存施設の改修を要請されたものである。

同国では、保健医療分野における重要課題の一つである看護婦不足の解消に向けて、看護婦の増員およびその質の向上に取り組んできている。特に地域医療の改善に力を入れているが、地域医療において助産婦などを統括・監理できる看護婦が不足している。現在は、看護大学の他18の看護学校にて看護婦の養成がされているが、この看護大学は、1986年に日本の無償資金協力によって建設された看護学校が1991年から看護大学となったものである。従来のDiplomaコースに加えて、看護学士を取得するためのコースとして、1991年からBNSc Bridgeコース（2年制）が、1994年からはBNSc Genericコース（4年制）が設置されている。現在同校では、当初Diplomaコースの生徒560名を想定して建設した施設において、BridgeコースおよびGenericコースの3コースを合わせた767名が在籍しており、学校運営上に支障をきたしている。

以上のような状況から、本件において看護大学の施設および看護教育用機材の拡充を行なうことは妥当性と必要性がかなり高いといえるが、特にその背景には、BridgeコースとGenericコースの設置による学生数の増加に対応する必要があること、同時に施設機材の格上の必要があることを踏まえて施設および看護教育用機材の拡充計画を行なうものとする。

3-2-2 要請内容の検討結果

「1-2 要請の概要・主要コンポーネント」に示した「ミ」国政府からの要請内容に対しては、事前調査の結果に基づいて日本政府の関係省庁にて十分に吟味・検討され、その必然性および緊急性が十分に認識された。本件が日本政府からの「無償資金協力」であることを踏まえ、現地調査においては前述の要請内容についてその内容を検討し、特に以下の点についての協議・検討を行ないつつ、最終施設・機材内容を決定するための協議が進められた。

1. 生徒数予測および適正規模の検討
2. 教員の確保
3. 看護大学のカリキュラムおよび教育内容
4. 維持管理体制
5. 近隣の病院との協力体制

上記5点についての検討結果とともに、基本設計調査にて確認された施設・機材内容および協議上の要点等は以下のとおりであるが、上記5点の検討結果については本報告書の各項（主として「3-3」）にて説明する。

(1) 計画の構成要素の検討

前述（「1-2(2)」）のように、事前調査時のサイドレターに示されていた要請内容は以下の3項目であった。

- ① 校舎（管理／教育係）およびドミトリーの建設による施設の拡充）
- ② 既存施設の給排水システムの改修、特にドミトリーのバスルームの配管と校舎、トイレ、実験室の配管および地下水汲み上げ部のポンプ
- ③ 同大学（新旧含めて）における看護教育に必要な機材

「ミ」国側との協議の結果、上記3項目については①→③→②の優先順位で検討することとなった。しかし、② 既存施設の給排水システムの改修については、現地にて各部の徹底的な調査を行なった結果、先方のメンテナンス体制に問題があることが明らかとなったため、メンテナンス体制の改善とスペアパーツの調達によって「ミ」国側にて解決できるものとして、今回の援助対象からはずすし、「ミ」国側の自助努力にて実施してもらうこととなった。このMinutes of Discussionsの中にも明記されている。

(2) 計画規模の検討

本件の実施にあたり、拡充する施設および機材の規模について以下の3コースそれぞれの学年数と1学年あたりの生徒数に基づいて検討し、表3-1に示すように同校の生徒数を予測した。

| | | |
|-------------------|------------------------|-------|
| - Diplomaコース | : 3年制、1学年200人 | =600人 |
| - BNSc Bridgeコース | : 2年制、1学年70人（ただし2年に1度） | =70人 |
| - BNSc Genericコース | : 4年制、1学年100人 | =400人 |

表 3 - 1 看護大学学生数推移

| | 1990/91 | 1991/92 | 1992/93 | 1993/94 | 1994/95 | ← 予 測 → | |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | | | | | 1998/99 | 2003/04 |
| Diplomaコース (3Y) | 271 | 347 | 641 | 689 | 603 | 600 | 600 |
| Bridgeコース (2Y) | 0 | 67 | 67 | 67 | 66 | 70 | 70 |
| Genericコース (4Y) | 0 | 0 | 0 | 0 | 98 | 400 | 400 |
| 合 計 | 271 | 414 | 708 | 756 | 767 | 1,070 | 1,070 |

上記生徒数については事前調査時のものとは多少異なるが、本件の施設規模設定にあたっては、この人数をベースとして行なうこととする。

なお、現在同校に対する入学希望者の数は非常に多く、過去3年間は定員の10倍を上回る数の受験者がいたということであり、本件において設定した1,070名という規模は生徒数の面だけからいえば決して多いものではないと考えられる。

(3) 要請内容の検討

現地調査の結果、「ミ」国側政府との間で交わされたMinutes of Discussions (1995年3月24日付)によると最終的に要請された内容は以下のとおりである。以下に2項に関する検討内容を示す。

<Minutes of Discussions (1995.3.24) に示されている要請内容>

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 新校舎施設の建設による校舎の拡張 ② 大学における看護教育関連機材の供与 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|

① 校舎・ドミトリーの建設については、協議・検討の結果については 1. ドミトリー→2. 校舎の優先順位にて建設することとなった。その施設内容についてはMinutes of DiscussionsのANNEX 2に示されており、その内容は以下のとおりである。

<Minutes of Discussions (1995.3.24) ANNEX2に示されている拡充要請施設>

- | | | |
|---------------|--|------------|
| 1) 寄 宿 舎 | | |
| ① 居 室 | | 100室 |
| ② 厨 房 | | 1室 |
| ③ 食 堂 | | 1室 |
| 2) 管理/教室棟 | | |
| ① 教 室 (50人用) | | 8室 |
| ② 教 室 (100人用) | | 2室 |
| ③ 図 書 館 (含書庫) | | 1室 (100人用) |
| ④ 実 習 室 | | 1室 |
| ⑤ 共通実験室 | | 1室 |
| ⑥ 会 議 室 | | 1室 |
| ⑦ 職 員 室 | | 5室 |
| ⑧ セミナー室 | | 3室 |
| ⑨ ミーティング室 | | 1室 |
| ⑩ 事 務 室 | | 1室 |
| ⑪ 視聴覚施設室 | | 1室 |

Note 1 : 上記各施設については、付属する必要諸施設（廊下、倉庫、トイレ、機械室および給電や給水等の設備等）を含むものとし、その詳細については両国の間でさらに検討を加える。
2 : 各施設の規模については今後さらなる検討を加えた上で決めていくこととする。

なお、上記各施設の内容および規模については、Minutes調印後にさらなる検討・協議を行なった結果、主要室数については以下のような検討により妥当性が認められている。

1) 寮の室数100室（学生用95室、スタッフ用5室）

- Genericコース400人のうち90%が寮利用 = 360人
- Bridgeコース70人のうち約25%が寮利用 = Max20人
- 上記360人 + 20人 = 380 一室4人として $380 / 4 = 95$ 室
- スタッフ用はTutor用（主として2人一室）とWarden用で計5室

上記条件で計算すると95室 + 5室 = 100室

b) 教室数（普通教室50人用8室、100人用大教室2室、Laboratory1室他）

- 年間11ヶ月の授業期間
- 午前中は主として病院等での実習を行なう。
（教育使用時間は1日4時間程度：稼働率50%と仮定）

- 各必要室数を計算すると
 - 必要教室数 : 13.38室
 - 必要実験室数 : 1.71室
- 100人用教室を50人用教室2室としてカウントする。

上記条件で検討すると、要請されている普通教室数は $8 + 2 \times 2 = 12$ 室となり、必要室数と比べて妥当な数といえる。また、実験室は1室が必要最小限と考えられる。

上記検討結果に基づき、基本設計調査の際に表3-2のように各室面積についての暫定案を作成し、ION側の原則的な合意を得ている。

表3-2 各室暫定床面積表

| | Tentatively Proposed Facilities | | | Remarks |
|---------------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------|----------|---------|
| | Area (㎡/Rm.) | Number of Rooms | Area (㎡) | |
| (1) Dormitories | | | | |
| 1. Dormitory rooms | 26.0 | 100 | 2,600.0 | |
| 2. Kitchen | 192.0 | 1 | 192.0 | |
| 3. Dining room | 384.0 | 1 | 384.0 | |
| 4. Common Space | | | 3,024.0 | |
| Sub-Total | | | 6,200.0 | |
| (2) Administration & Training Building | | | | |
| 1. Classrooms (50) | 80.0 | 8 | 640.0 | |
| 2. Classrooms (100) | 160.0 | 2 | 320.0 | |
| 3. Library (including book storage) | 320.0 | 1 | 320.0 | |
| 4. Demonstration room | 160.0 | 1 | 160.0 | |
| 5. Common Laboratory | 160.0 | 1 | 160.0 | |
| 6. Conference room | 160.0 | 1 | 160.0 | |
| 7. Teaching Staff rooms | 40.0 | 5 | 200.0 | |
| 8. Seminar rooms | 40.0 | 3 | 120.0 | |
| 9. Meeting room | 40.0 | 1 | 40.0 | |
| 10. Office (including Rector's room and Reception room) | 160.0 | 1 | 160.0 | |
| 11. A/V Equipment room | 80.0 | 1 | 80.0 | |
| 12. Common space | | | 1,540.0 | |
| Sub-Total | | | 3,900.0 | |
| (3) Other | | | | |
| 1. Mechanical room | 150.0 | 1 | 150.0 | |
| 2. Corridor | | | 300.0 | |
| Sub-Total | | | 450.0 | |
| TOTAL | | | 10,550.0 | |

*本表の値は、基本設計調査の際にION側と合意を得た暫定面積

上記合意事項に基づいて基本計画（案）を策定した後、ドラフト説明調査にてその内容の確認および再協議を行なったところ、計画内容に多少の変更が加えられ、その内容については以下のとおりMinutes of Discussions（1995年8月30日付）に示されている。

〈Minutes of Discussions（1995.8.30）ANNEX1に示されている拡充要請施設〉

1) 寄 宿 舎

| | |
|-------|------|
| ① 居 室 | 100室 |
| ② 厨 房 | 1室 |
| ③ 食 堂 | 1室 |

2) 管理／教室棟

| | |
|--------------|-----------|
| ① 教 室（50人用） | 8室 |
| ② 教 室（100人用） | 2室 |
| ③ 図 書 館（含書庫） | 1室（100人用） |
| ④ 実 習 室 | 1室 |
| ⑤ 共通実験室 | 1室 |
| ⑥ 会 議 室 | 1室 |
| ⑦ 職 員 室 | 3室 |
| ⑧ 登録係室 | 1室 |
| ⑨ ミーティング室 | 1室 |
| ⑩ 事 務 室 | 1室 |
| ⑪ 視聴覚施設室 | 1室 |

Note 1 : 上記各施設については、付属する必要諸施設（廊下、倉庫、トイレ、機械室および給電や給水等の設備等）を含むものとし、その詳細については両国の間でさらに検討を加える。
2 : 大学内の道路、街灯およびフェンス等に関する建設および取り付けに関しては、原則的に「ミ」国政府側にて行なうものとする。

「3-3 基本設計」においては、上記の合意された床面積をもとに、各施設の計画を行なうこととする。

② 機材計画については、事前調査時の機材リストおよびその後要請のあった書籍リストを基に協議を行なった結果、書籍類については、NGO等の援助により、その数は増加しつつあるとして、今回は削除することで合意された。

本大学のカリキュラムは講義、実験、実習に分類されており、要請機材の検討も同分類に沿って行なう必要がある。講義に使用する機材は主に各種人体模型、視聴覚機器等があり、実験用機材は基礎的な臨床検査室用機材、ガラス器具、試薬等、実習用機材としては実習用各種人形、パーソナルコンピューター等がある。また、教材作成用機材としてオフセット印刷機、輪転機、言語学習用機材としてLL教室用機材、事務処理用機材としてタイプライター、各種文房具等がある。

これらの機材について調査、検討したところ、要請機材内容は概ね妥当であると考えられるが、一部には必要以上の仕様となっているもの、建築設備と密接に関係するもの、現地側で十分対処可能なもの、特殊な保守管理技術を要するもの、維持管理費が高価なもの等が含まれていたため、その様な機材は現地側と協議の上で削除することとした。また、要請書に含まれていなくても、看護教育活動上必要性が高く、維持管理上の観点からも問題ないと判断された機材は追加することとした。

以上のように、本件の必要性、現実性、相手国の実施能力等が検討・確認され、本計画の効果が無償資金協力の性格と合致していることから、本件の実施は妥当であると判断された。よって、日本の無償資金協力を前提として、以下において計画の概要を検討し、基本設計を実施することとする。

3-3 基本設計

3-3-1 設計方針

本計画において、提案する施設・建物・機材の計画にあたっては、現地調査を踏まえ、「ミ」国の自然・社会条件、建設・調達条件、実施機関の維持・管理能力、無償資金協力に基づく建設工期等を勘案し、以下の設計方針に基づいて行なうものとする。

- (1) 新旧施設が共存して機能し、拡充計画の意義が効果的に生まれるような設計を行なう。
- (2) 現施設の長所を参考とする一方、現有する問題点をできる限り改善する方向で設計する。ただし、両者の水準の調和には留意する。
- (3) 現地の風土（雨、日射、通風）および風習（セキュリティ、男女の分離等）については十分考慮する。
- (4) 維持管理が容易で、メンテナンスコストのかからない施設設計、設備設計、機材選定を行なう。
- (5) ローカル工法、ローカル産材料および第三国調達（タイ、シンガポール等）のできる限りの活用を考慮する。ただし、品質上、調達期間上問題を有するものについては、日本調達も検討し、最も合理的な方法を選定する。
- (6) 日本の無償資金協力のしくみの中で実施するようにその枠内とスケジュールに合致した設計とする。

3-3-2 設計条件の検討

(1) 規模設定の方針

同校は、より高いレベルの看護婦の養成を目指して、1991年に「看護学校」から「看護大学」に格上げされ、従来のDiplomaコースに加えて2年制のBNSC（看護学士）Bridgeコースが設置され、さらに1994年度には4年制のGenericコースも開始されている。今回の拡充計画実施後は、現施設をDiplomaコース用として使用し、新規施設をBachelorコース(Bridge& Generic)用として使用する方針が決められている。

現施設は当初定員560名として計画されていたが、現在上記3コースの学生計767名が在籍しており、本件実施により、Diplomaコース（一学年200人×3=600人）の施設として、適正規模に近い活用が可能となる。一方、Genericコース定員は今後一学年100人×4学年=400人、Bridgeコースは約70人が設定されており、本件（新施設）の規模設定については、この人数をベースに行なうこととする。

表 3 - 3 看護大学学生数推移

← 予 測 →

| | 1994/95 | | 1998/99 | | 2003/04 |
|---------------|----------------|--|---------|--|---------|
| ディプロマコース (3Y) | 603 | | 600 | | 600 |
| ブリッジコース (2Y) | 66 | | 70 | | 70 |
| 学士コース (4Y) | 1年 42 2年 56 | | 400 | | 400 |
| 合 計 | 767 | | 1,070 | | 1,070 |

(2) 規模設定

1) ドミトリーの規模算定

ドミトリーの部屋数については将来470名（BridgeコースおよびGenericコース）を受け入れることを計画しており、この数字をもとに現況のドミトリーの利用率等を勘案して下記のように算出した。

看護大学学長よりのヒアリング調査結果により、Genericコース400人のうち90%がドミトリーを利用するものとし、また、Bridgeコース70人のうち約25%がドミトリーを利用するものとした。

| | |
|------------|-----------------|
| Genericコース | 400人×90% = 360人 |
| Bridgeコース | 70人×25% = 20人 |
| 合 計 | 380人 |

現施設同様、1室4人とすることが決められており、 $380/4 = 95$ 室必要となる。また、スタッフ用として、Tutor用（主として2人1室）4室とWarden用1室の合計5室が必要である。その他のドミトリー諸室として、既存の利用状況を調査検討した結果、居室が狭いため、自習室等を行なうスタディールームとしての利用ならびに4時から6時の面会スペース（パーラー）の利用を考慮し、スタディールームが必要である。便所、シャワー室、ランドリー等は、現状の狭さ、暗さ等の改良点を考慮し、その規模を検討する。

2) 教室の規模算定

普通教室は、現施設の利用状況の調査結果および先方との協議に基づき、50人教室、100人教室とする。現施設は、40人教室であるが、主として新キャンパスを利用する看護学士Genericコースを1クラス50名とするため、この数値を採用することとなった。

予定される学年別クラス数、カリキュラムにより、普通教室および実験室、実習室の利用の総時限数を算出し、各々の教室の計画充足率を掛けて、利用時限数を算定する。算定にあたっては現施設の教室利用率、他の東南アジアにおける無償の類似施設の例を参考として、年間の総合授業時間数880時間（午前中は主として校外実習であるとして、1日4時間、週5日、年間11ヶ月の授業期間と設定）と教室利用率の上限（80%）で除して計画教室数を表3-4、3-5に示すように算出した。Genericコースにおいては、各科目により50人教室、100人教室の利用に分れるが、基本的には1クラス50名の2クラスにて授業が行なわれるものとした。また、Bridgeコースにおいても1クラス35名の2クラスとして算定した。

各コース毎に算出した結果、Genericコースは普通教室9室、実験室1室、Bridgeコースは、普通教室3室、実習室2室が必要となる。よって、合計すると普通教室12室、実験室1室、実習室2室が必要となる。

これらの数字をもとに現施設の利用状況の分析および大学側との協議結果を踏まえ、50人教室8室、100人教室2室（普通教室2室分とカウントすると4室）、実験室1室、実習室1室が必要最小限の妥当数と考えられる。

表3-4 Bridgeコースに必要な教室数の算定
(カリキュラムおよび計画クラス数より)

| | 講義 | 実習 | 備考 |
|------------|----------------------|----------------------|----------|
| 1年目 | 730×2 | 870×2 | |
| 2年目 | 405×2 | 1,220×2 | |
| 最大時限数 | 1,460 ^{*1)} | 2,440 ^{*1)} | 時限数×クラス数 |
| 教室計画充足率(%) | 100 | 50 ^{*2)} | |
| 教室利用時間 | 1,460 | 1,220 | |
| 必要教室数 | 2.07 | 1.73 | |
| 計画教室数 | 3 | 2 | |

*1): Bridgeコースは2年毎に生徒が入るため、1年目および2年目のうち講義および実習の最大を利用するものとする。

*2): 実習は、校内にて行なうものと、校外にて行なうものが50%程度として算定した。

表3-5 Genericコースに必要な教室数の算定
(カリキュラムおよび計画クラス数より)

| | 講義 | 実験 | 現場実習 | 備考 |
|------------|-------|-------|-------|------------------|
| 1年 | 888×2 | 152×2 | 224 | |
| 2年 | 846×2 | 96×2 | 442 | |
| 3年 | 628×2 | 80×2 | 656 | |
| 4年 | 582×2 | 48×2 | 720 | |
| 最大時限数 | 5,888 | 752 | 2,042 | 時限数×クラス数 |
| 教室計画充足率(%) | 100 | 100 | 0 | |
| 教室利用時間 | 5,888 | 752 | 0 | |
| 必要教室数 | 8.36 | 1.07 | 0 | 教室利用時間÷(880×0.8) |
| 計画教室数 | 9 | 1 | 0 | |

(3) 各室規模算定

「(2) 規模設定」によって設定した新施設の必要室数および施設より床面積を算定する。各教室の規模の設定にあたっては、看護大学の現施設、ヤンゴン市内の類似施設の調査結果、相手側との協議ならびにその他東南アジア地域での類似の無償資金協力案件を参考に以下のように設定する(「表3-6」参照)。

1) 教室

既存校舎の最も基本的な40人用教室の規模は、 $7.5\text{m} \times 8\text{m} = 60\text{m}^2$ であり、1人当たりの面積は 1.5m^2 であり、既存の利用状況を調査した結果、ほぼ妥当な規模であった。また、東南アジアの他の無償案件と比較すると「タイ王国マハサラカム看護学校」で1人当たり 1.2m^2 、「インドネシア国看護教育施設」で1人当たり 1.52m^2 となっている。

これらの例および机のレイアウト等を考慮し、50人用教室は $8\text{ m} \times 10\text{ m} = 80\text{ m}^2$ として計画する。「図3-1」に50人用教室におけるレイアウト例を示す。また、100人用教室の規模は、2クラス合同の利用を考慮し、この50人用教室をもとに $16\text{ m} \times 10\text{ m} = 160\text{ m}^2$ として計画する。

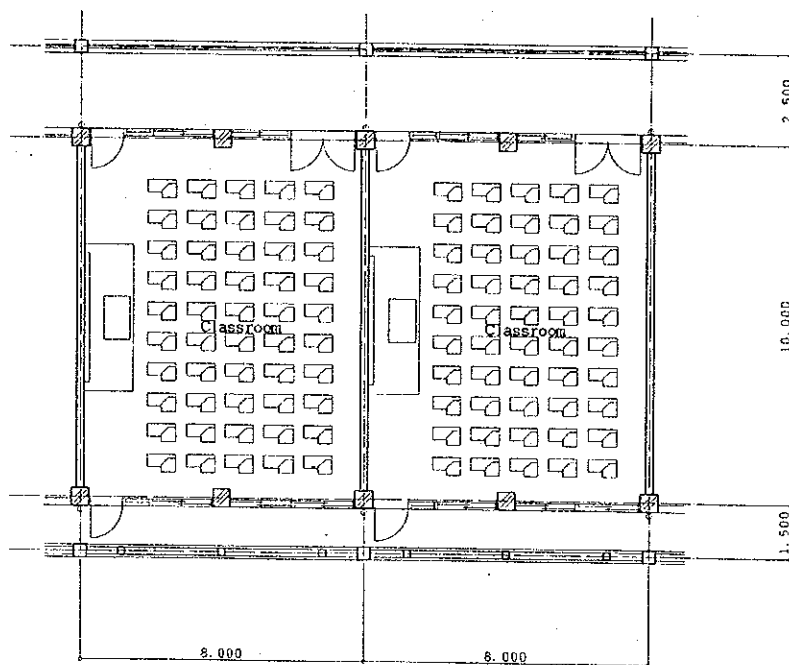


図3-1 普通教室

2) 図書室および書庫 (Library and book storage)

現施設の図書室は書庫が狭く、蔵書数はさほど多くないが、蔵書が整理しきれない状況である。しかし、図書室の利用率は高い状況である。本基本調査において、新施設の図書室はDiplomaコース、Bachelorコースの両コース共有の施設として一元化して利用されることが確認された。図書室の規模算定にあたっては、学校側との協議の上、現状および今後の増加を踏まえ、閲覧100席、書庫3万冊程度収納可能な規模とし、机、キャレル、書棚のレイアウトより算定した。「図3-2」に図書室のレイアウト例を示す。

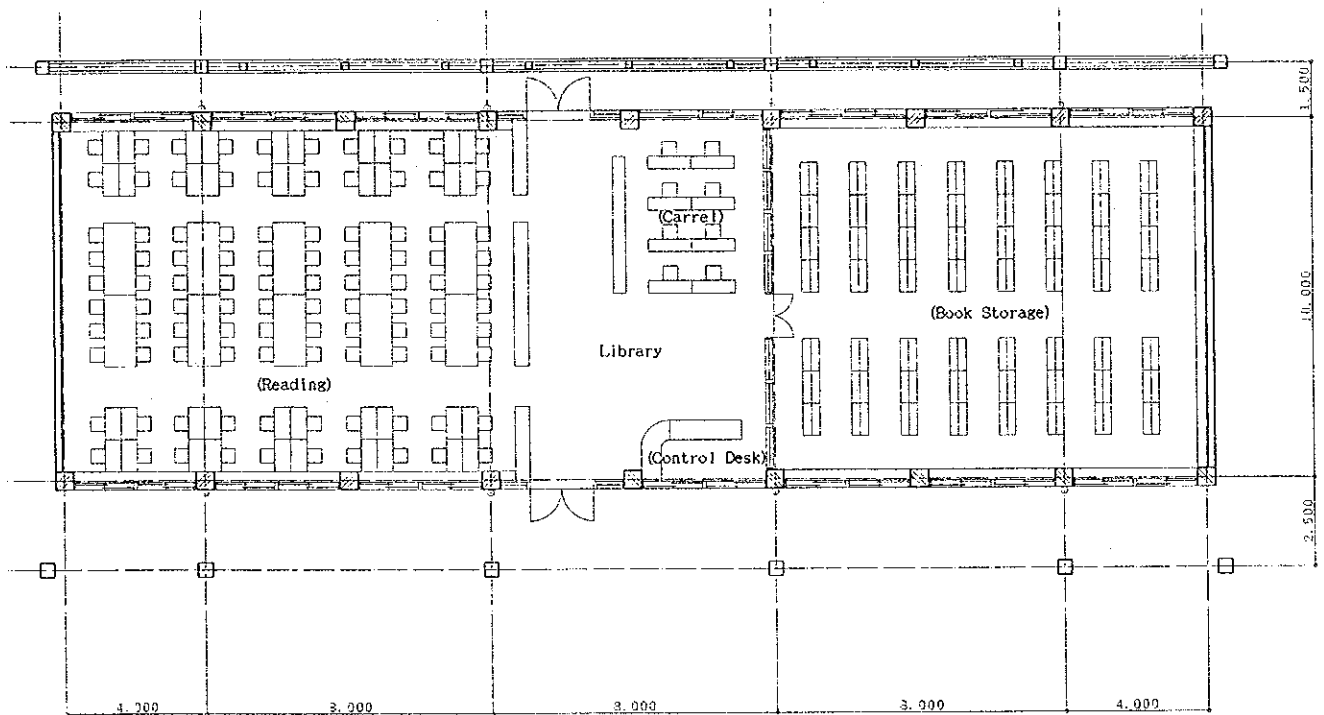


図3-2 図書室および書庫

3) 実習室および実験室 (Demonstration room and Common Laboratory)

実験室および実習室の規模算定にあたっては、実習内容、受講生徒数および機材レイアウト等より算定する必要がある。

既存校舎の実験室は90㎡であり、40人利用するものとする1人当たり2.25㎡であり、調査の結果、妥当な規模であることが確認された。また、「タイ王国マハサラカム看護学校」は15m×8m=120㎡で75人で利用しているものと仮定すると1人当たり約1.6㎡程度である。

本調査の協議を通じて、実験室には窓側にテーブルと手洗器2ヶ所および実験テーブル9つが要請された。機材のレイアウトおよび他の事例等より通常教室の1.5倍程度として、10m×12m=120㎡として設定するものとする。また、実験室には、機材等の保管のため、準備室を付帯させることが必要であると考え、「図3-3」に実験室のレイアウト例を示す。

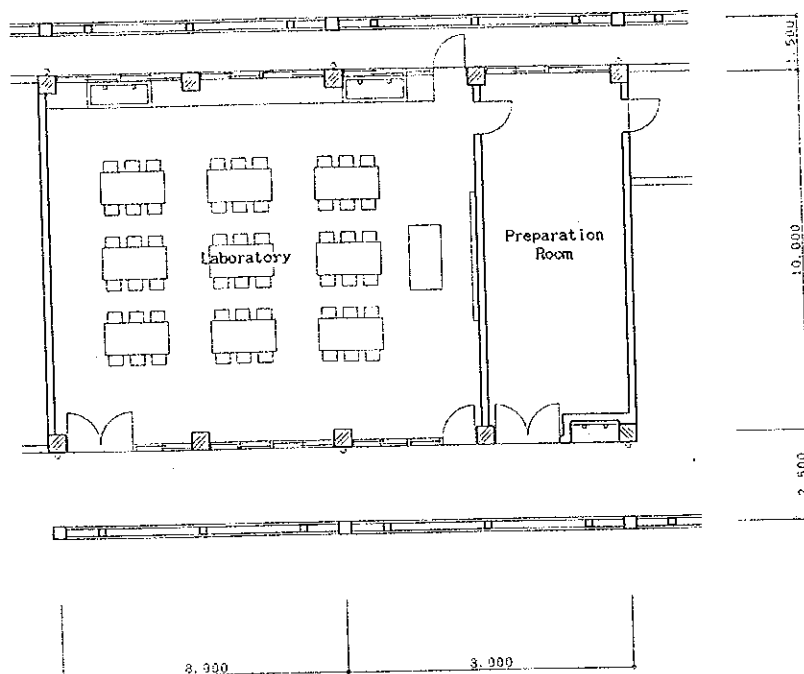


図 3-3 実 験 室

4) 会議室 (Conference room and Meeting room)

オーディトリウムは、既存施設を共用することとなるが、講演、講習等の目的で新施設においても100人程度収容可能な会議室の設置の必要性が確認された。他類似案件および椅子のレイアウト等より100人教室と同程度の1人当たり1.6㎡とし、160㎡と設定するものとする。

また、25名程度のスタッフが会議可能なスペースとして小会議室 (Meeting room) を設置する。小会議室の規模算定にあたっては、 $4\text{ m} \times 10\text{ m} = 40\text{ m}^2$ と設定するものとする。

5) 教員スタッフ室 (Teaching Staff room)

大学側より、教職員の増員計画として、原則として現施設の学生数600人に対し、新施設400人 (Genericコース) として3:2の割合にて増員計画数が示された。これによるとAcademic Departmentは、14のDepartmentより形成され、最終的には約60名の教員が配員される予定である (ただし、この教員数については「3-4-1 (2)」に示す予定教員数のうち、DemonstrationおよびInstructorを除く教員を対象としている)。

教員スタッフ室の規模算定にあたっては、現施設の単位面積よりの算定では、圧倒的に狭く、主な5つのDepartmentについては、それぞれに約60㎡程度要望されていたが、全体施設規模および家具等のレイアウトを考慮し、当初は30人前後の教員と予想されるため、30～60人程度の利用として、80㎡2室と120㎡1室と設定する。

6) 事務室 (Office including Rector's room and Reception room)

大学の教職員増員計画によると1998年/1999年時点で新施設における事務職員数は60人である。現施設の事務室面積は約150㎡であり、現在の事務職員数107名より単位面積を算定すると、1人当たり1.4㎡となる。この単位面積より算定すると、60人の場合、約80㎡必要となる。他の類似事例および家具のレイアウト等を考慮し、8m×10m=80㎡と設定する。

事務室の付帯施設として、学長室およびレセプションルームが要望されており、現施設の面積および使用目的を考慮し、それぞれ20㎡、40㎡と設定する。また、学長室には学長からの強い要望もあって、学外で行なわれる講演会等への頻繁な外出の際に利用するためのシャワー室の設置について検討する。また、印刷機および輪転機が要請されており、これらのための印刷室の設置が必要となる。

7) 視聴覚機器保管室 (A/V Equipment room)

OHP、ビデオプレーヤー、スライドプロジェクター等の導入が望まれる視聴覚機器等を保管し、その耐久年数を確保する意味で、「ミ」国の気候を考慮し、視聴覚機器の保管室は必要不可欠であると判断された。

規模の算定については、導入される機器の数量等を考慮し、80㎡と設定する。

8) ドミトリー居室 (Dormitory room)

既存のドミトリーは1室7m×3.75=26.25㎡で、1人当たりの面積は6.56㎡であり、小さい。タイおよびインドネシアの他の類似無償案件では、1人当たりそれぞれ7.14㎡、7.59㎡であり、これに比しても既存のドミトリーは最小限に計画されている。さらに、類似施設であるYangon General Hospitalの看護学校の寮、YITの学生寮等は、同程度の広さを2人部屋として利用しており、本件の面積は絶対的に小さいと言える。寮生にヒアリングした結果（実際の視察においても）若干狭いようであり、新設部においても既設部の面積基準により設計するものとするが、家具レイアウトおよび他の類似無償案件の事例を踏まえ、1人当たり7.0㎡程度として計画するものとする。さらに、開口部の工夫、収納棚の工夫等により面積上の狭さを少しでも緩和し、より居住性の上がるよう計画する。「図3-4」にドミトリー居室のレイアウト例を示す。

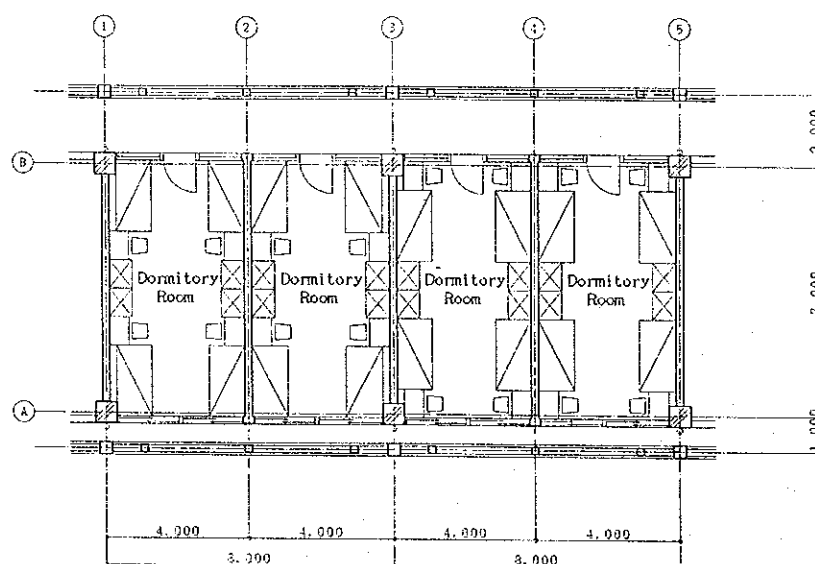


図3-4 ドミトリー居室

9) 食堂、厨房

既存校舎の食堂は、生徒数約600人と想定し、その1/3は病院実習などのために不在と考え、残る400人が2交代で利用するものとして計画されている。既存の食堂は311㎡で、1人当たり1.72㎡である。

新施設では、約400名の生徒が新設される食堂を利用するものと仮定し、前計画同様、2交代で利用するものとする。

上記の条件および他の類似案件の規模ならびに家具レイアウトを考慮し、1人当たり1.9㎡、約380㎡とする。「図3-5」にレイアウト例を示す。また、厨房については、400名分の食事を賄えるスペースおよび設備機器のレイアウトを考慮し計画する。

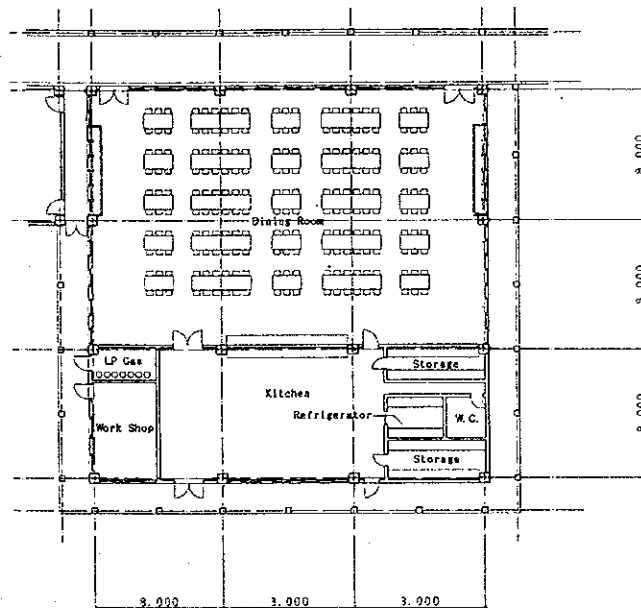


図3-5 食堂、厨房

10) その他施設（機械室）

その他施設としてメンテナンスのスタッフ用のワークショップ、機械室および電気室等が必要であり、既存施設の状況、設備機器のレイアウト等より必要最小限のものとして規模を算定するとそれぞれ30㎡、60㎡、80㎡程度必要となる。

表3-6 諸室の面積算定基準（東南アジアにおける類似無償案件および既存施設による）

| | タイ王国 マハサラカム看護学校 (1981年3月) | インドネシア国 看護教育施設 (1979年3月) | 既存校舎 | 本計画での採用値 |
|----------|-------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 教室 | 150人用 22.5m×8m=180㎡ 1人当たり 1.2㎡ | 40人用 9m×6.75m=60.75㎡ 1人当たり 1.52㎡ | 40人用 7.5m×8m=60㎡ 1人当たり 1.5㎡ 80人用 1人当たり 1.5㎡ | 50人用 8m×10m=80㎡ 1人当たり 1.6㎡ 100人用 1人当たり 1.6㎡ |
| 実験室 | 15m×8m=120㎡ 1人当たり 1.6㎡ | — | 11.25m×8m=90㎡ 1人当たり 2.25㎡ | 50人用 10m×12m=120㎡ 1人当たり 2.4㎡ |
| 実習室 | 15m×8m=120㎡ | — | 11.25m×8m=90㎡ | 10m×16m=160㎡ 1人当たり 3.2㎡ |
| 図書室、書庫 | 図書室 22.5m×8m=180㎡ 書庫 7.5m×8m=60㎡ | 91.12㎡ | 205㎡ | 図書室 16m×10m=160㎡ 書庫 16m×10m=160㎡ |
| 会議室 | 11.25m×8m=90㎡ | 6.75m×4.5m=30.375㎡ | 5.7m×8m=46㎡ | 10m×16m=160㎡ |
| 教員室 | 7.5m×8m=60㎡ | 6.75m×4.5m=30.375㎡ | 48人用* 162.6㎡ 1人当たり 3.4㎡ | 60人用* 28m×10m=280㎡ 1人当たり 4.6㎡ |
| 視聴覚機器保管室 | — | — | 3.25m×8m=30㎡ | 8m×10m=80㎡ |
| 事務室 | 11.25m×8m=90㎡ | 13.5m×6.75m=91.12㎡ | 150㎡ 1人当たり 1.4㎡ | 8m×10m=80㎡ 1人当たり 1.4㎡ |
| ドミトリ | 8人用 9m×6.35m=57.15㎡ 1人当たり 7.14㎡ | 4人用 6.75m×4.5m=30.375㎡ 1人当たり 7.59㎡ | 4人用 7m×3.75m=26.25㎡ 1人当たり 6.56㎡ | 4人用 7.0m×4.0m=28㎡ 1人当たり 7.0㎡ |
| 食堂 | 300席 399㎡ 1人当たり 1.33㎡ | 189.5㎡ | 400人が2交代 343.31㎡ 1人当たり 1.72㎡ | 384㎡ 1人当たり 1.92㎡ |
| 厨房 | 180㎡ | 60.75㎡ | 153㎡ | 192㎡ |

注*) 既存校舎および本計画での教員数には「3-4-1(2)」に示す教職員数のうち、教授、教官、副教官および講師の人数の合計を用いている。

(4) 必要諸室および面積

現地調査時にION側と原則的に合意された表3-2に示す「各室床面積暫定表」および現地調査の結果を踏まえ、修正を加えた計画建物の必要諸室および面積を表3-9に示す。

表3-9 必要諸室および面積

| 室名 | 面積 (㎡/室) | 室数 | 面積 (㎡) | 備考 |
|---------------------------------------------|-------------|-----|-----------|-------------------|
| (1) ドミトリー | | | | |
| 1. ドミトリー居室 | 28.0 | 100 | 2,800.0 | スタッフ用5室を含む |
| 2. 厨房 | 192.0 | 1 | 192.0 | ワークショップを含む |
| 3. 食堂 | 384.0 | 1 | 384.0 | 200人収容 |
| 4. 共有部(廊下、階段、スタ ディ室、ランドリー、便所、 シャワー室等) | | | 3,872.0 | 機械室56㎡を含む |
| 小計 | | | 7,248.0 | |
| (2) 校舎 | | | | |
| 1. 教室(50) | 80.0 | 8 | 640.0 | |
| 2. 教室(100) | 160.0 | 2 | 320.0 | |
| 3. 図書室(書庫を含む) | 320.0 | 1 | 320.0 | |
| 4. 実習室 | 120.0 | 1 | 120.0 | |
| 5. 実験室 | 160.0 | 1 | 160.0 | 準備室も含む |
| 6. 会議室 | 160.0 | 1 | 160.0 | |
| 7. 教員スタッフ室(中) | 80.0 | 2 | 160.0 | |
| 8. " (大) | 120.0 | 1 | 120.0 | |
| 9. 登録係室 | 40.0 | 1 | 40.0 | |
| 10. ミーティング室 | 40.0 | 1 | 40.0 | |
| 11. 事務室(学長室、レセプション ルーム、倉庫等を含む) | 240.0 | 1 | 240.0 | コピー室、倉庫40㎡を 含む |
| 12. 視聴覚機器保管室 | 80.0 | 1 | 80.0 | |
| 13. 共有部(廊下、階段、便所等) | | | 1,650.0 | 電気室80㎡を含む |
| 小計 | | | 4,090.0 | |
| (3) その他 | | | | |
| 1. ガードハウス | 24.0 | 1 | 24.0 | |
| 2. アトリウム | | | 429.0 | |
| 3. 渡り廊下 | | | 522.0 | |
| 小計 | | | 975.0 | |
| 合計 | | | 12,313.0 | |

Note : 面積が現地調査時の「各室床面積暫定表」に比して若干増加しているが、これは主に以下の理由による。

- (1) ドミトリー居室を1人当たり7.0㎡と若干広くした。
- (2) 現地調査を踏まえ、ドミトリー廊下幅を1.5mから既存施設同様の2mとした。
- (3) その他現地調査を踏まえ、必要諸室、面積を再検証した。

これらの面積の増加は、機能を満足する上で必要かつ最小限のものである。

3-3-3 基本計画

(1) 配置計画

本プロジェクトサイトは現施設とBogyoke Aung San Roadを隔てて北側に位置しており、現施設と新施設を結ぶ敷地間の移動および動線を十分考慮した計画が重要である。

現施設のメインアプローチは、敷地北側のBogyoke Aung San Roadで、サブアプローチは敷地西側のMorton Roadより行なわれている。Bogyoke Aung San RoadとYangon P Y I Roadの交差する現施設東側の交差点はYangon市でも交通量の最も多いところであり、歩行者の安全を考慮した計画とする必要がある。

本プロジェクトサイトのメインアプローチは、大学側および「ミ」国側関係者と協議の上、幹線道路（Bogyoke Aung San Road）側より取ることとなった。

既存キャンパスと新キャンパスの間の人々の往来方法については「ミ」国側負担を前提として、1) 横断歩道・信号、2) 歩道橋架設、3) 地下道連絡等の方法を提案、検討協議したが、決定的な答えは出されず、今後「ミ」国側の内部検討に委ねることとなった（なお、4月7日DOHMにての最終打ち合わせでは「ミ」国側としてはシグナル制御が一番可能性が高いとのことであった）。

これら現施設との関係、敷地周辺の交通の状況等を十分に考慮し、配置計画にあたっては、以下の事項を基本的留意点として計画した。

基本方針

- 「ミ」国の気候・風土を考慮し、年間を通して良好な通風・採光・防音を保てるよう隣棟間隔、建物の向きを考慮する。具体的には、現施設のレイアウト上の長所を生かし、南国の強烈な日射による受熱を減らし、自然通風を取り入れるよう建物を東西軸に配置する。
- 雨期を考慮し、各施設間を雨にぬれず移動できるよう渡り廊下等を設置する。
- 新校舎、既存校舎およびドミトリー等と実習のための病院への動線等を考慮した計画とする。これについては、特にアプローチの取り方を幹線側にとり、最短の動線計画とする。

- 中庭などの外部空間を有効に利用し、大学に相応しい、落ち着いたアカデミックな雰囲気を演出する。
- ドミトリーのプライバシーが保たれる計画とする。
- 南北に長い敷地形状の特殊性を考慮した配置計画とする。
- 周辺環境（住宅地域等）との調和に留意した計画とする。
- 敷地東側の旧監獄踏地の利用（保健省関係施設の移転等）を考慮した計画とする。

(2) 建築計画

1) 平面計画

平面計画にあたっては、前項で述べた配置計画および各諸室の規模算定を踏まえ、それぞれの施設ごとに以下の点を考慮して計画した。

- 既存校舎、ドミトリーとの整合性を考慮し、片廊下型および中廊下型の欠点を補う一つの案として、中庭を囲む回廊型の平面計画とする。
- カリキュラム、時間割等を考慮し、教室間の移動が容易となる施設計画とする。
- 気候・風土を考慮し、有効な通風および室内環境が保たれるよう計画する。
- 既存施設と同様、冷房設備は基本的に行なわない自然換気方式を検討し、通風性を考慮して、中央に中庭等の設置を検討する。
- 資機材の搬入および工期の短縮化を図るため、材料の規格を極力統一する必要がある。このため、柱間を統一し、モジュール化する。モジュールは、既存施設および他の東南アジア地域における類似案件の柱間隔をもとに4.0mまたは、5.0mとする。
- 教室の配置にあたってはシラバスおよびカリキュラムを把握した上で、生徒およびスタッフの動線を考慮し、教室、セミナー室等の一般教室と実験室、実習室等の特別教室、ならびに教員スタッフ室、事務室等の管理諸室の明確なゾーニング計画を行なう。

- ドミトリーの計画にあたっては、必要最小限の室面積にて、快適な生活が行なえるようレイアウト等の検討を行なう。また、約400名の生徒が宿泊することとなるため、災害時の安全性を考慮した平面計画とする。具体的には、避難路、避難階段等の検討を行なう。
- 機材・家具・什器の寸法およびレイアウトを考慮した平面計画とする。

2) 断面計画

断面計画にあたっては、現地様式・現地工法等を踏まえ、以下の事項を留意点として計画した。

- 1階床面は、雨期における水害や地面からの輻照射を考慮して、現状地盤より高床とする。
- 屋根は、勾配屋根として、大量の雨に対して速やかに処理できるものとする。
- 軒の出を深くし、またバルコニーを設けることによって、日射および降雨を遮るものとする。
- 廊下部分への雨水の吹き込みを考慮し、通風・採光も可能な穴あきブロック等による遮蔽方法について検討する。
- 開口部はできるだけ広く取り、教室内への自然採光と通風の導入を図る。
- 周囲の景観との調和を考慮するとともに、これまでの我が国による他の無償案件（現施設、ヤンゴン総合病院等）との水準と整合する計画とする。

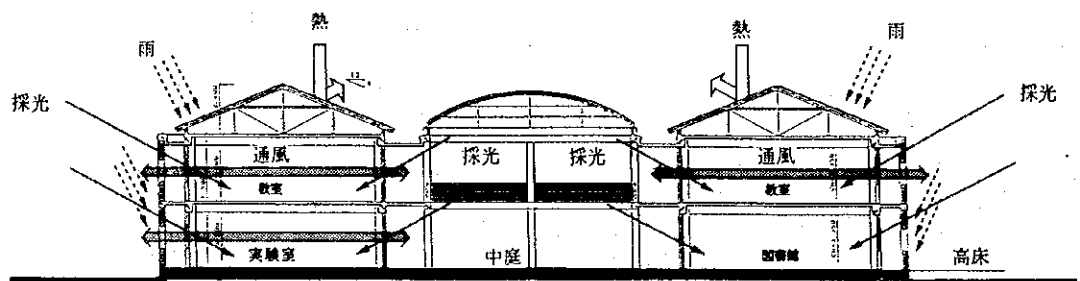


図3-6 断面計画

(3) 構造計画

1) 基本方針

本計画の設計にあたり、長期荷重時における、たわみ、振動等により、使用上支障のない構造形式とし、また、短期荷重時においても地震や強風に対して建物の体力を損なうことなく十分な安全性を持たせることを基本とする。さらに現地にて施工容易となる単純明快な耐久性のある工法・構造計画とする。

2) 構造設計基準

「ミ」国政府は、独自の基準を作成すべく準備を開始しているが、現時点においては、構造計画に関わる法規や基準はなく、一般的には、英国の基準（B. S.）によって設計されている。本計画にあたっては、必要に応じて、日本の建築基準法の諸規定および日本建築学会の構造設計基準も参考とするものとするが、現地の周辺建物等の状況を把握し、過剰設計とならないよう考慮する。

3) 工法と使用材料

工法は、現地にて一般的かつ経済的な構造形式である鉄筋コンクリートラーメン構造とする。鉄筋、コンクリート等の使用構造材料は現地にて入手可能であるが、その品質はあまりよくなく、施工時に品質管理を十分に行なう必要がある。

4) 地盤および基礎構造

地質調査の結果より、地盤面下1.0~1.45m以深の粘土層を支持層とする直接基礎（独立および布基礎を採用する。設計地耐力は、 10.0 t/m^2 （長期））とする。

5) 設計荷重

① 固定荷重（ $G : \text{kg/m}^2$ ）

建物の各部について、自重を算定する。自重は構造躯体と仕上材料を加算したものとする。

② 積載荷重（ $P : \text{kg/m}^2$ ）

PWへのヒアリングにより、B Sの基準による数値を得たが、経済性等を考慮し、現施設と同様の数値を採用するものとする。

| | (kg/m ²) | | |
|-------|----------------------|------|-----|
| | 床 | フレーム | 地震 |
| 校舎 | 230 | 210 | 110 |
| ドミトリー | 180 | 130 | 60 |
| 食堂 | 230 | 210 | 110 |

③ 地震荷重 (K)

「ミ」国は、欧亚地震帯に位置し、過去においても1930年のペグ地震や1970年のラングーン地震（震度4～5）を始め地震による災害の発生が記録されている。現施設の設計時においては、水平震度 $K=0.12$ を採用しているが、PWの技術者との協議の結果、BSの基準により水平震度 $K=0.15$ を採用する。

④ 荷重の組合わせ

荷重の組み合わせについては、以下のとおりとする。

- 長期設計荷重（常時）
：固定荷重 (G) + 積載荷重 (P)
- 短期設計荷重 : 固定荷重 (G) + 積載荷重 (P) + 地震荷重 (K)

⑤ 設計基準強度

PWへのヒアリングの結果、「ミ」国におけるコンクリート強度は158 kg/cm²、混合比 (1 : 2 : 4) であるが、現施設および他の類似無償案件と同水準とすることを前提とし、現施設の設計基準強度と同様180 kg/cm²とする。また、鋼材についても現施設と同水準を確保することを前提として下記の設計基準強度を採用する。

- コンクリート設計基準強度 : 180kg/cm²
- 鋼材 (普通丸鋼) : 長期1,600kg/cm²、短期2,400kg/cm² (SR235)
- (異形丸鋼) : 長期2,000kg/cm²、短期3,000kg/cm² (SD295)
- 長期2,200kg/cm²、短期3,500kg/cm² (SD345)
- (鉄骨用鋼材) : 長期1,600kg/cm²、短期2,400kg/cm² (SS400)
- 長期2,200kg/cm²、短期3,000kg/cm² (SM490)

(4) 設備計画

1) 設備計画の基本方針

設備計画の基本方針としては、「ミ」国の気候、風土、現地調達資機材、維持管理方法、消耗品等を考慮し、現地に適した設備計画を行なう。すなわち、

- ① 高温、多湿な熱帯性気候という自然条件を考慮して計画する。
- ② 看護大学という性格上、衛生面には十分配慮する。
- ③ 使用する機器および材料は維持管理が容易で耐久性の優れたものを使用する。特に、配管材は現場の水質に適したものを使用する。
- ④ 使用する機器、材料、スペアパーツおよび消耗品等は可能な限り「ミ」国または近隣の第三国にて調達可能なものを使用する。
- ⑤ 環境汚染に十分配慮して計画する。

上記基本方針に基づき、以下に設備計画の概要を述べる。

2) 電力引込設備

当敷地の南側Bogyoke Aung San道路にM E P E (Myanmar Electric Power Enterprise) の6.6KVおよび33KVの高圧ケーブルが敷設されている。

既存看護大学はこの6.6KVケーブルより敷地内のサブステーションに高圧引込し、これより現施設内電気室、New Yangon General Hospitalおよび周辺住宅に6.6KVにて配電している。

新施設の電源は現施設のサブステーション内にスイッチギアを増設し、これより新設電気室内高圧受電盤へ接続する。日本側は増設スイッチギア、高圧受電盤およびこの間のケーブル(X L P E) およびコンジットを供給し、「ミ」国側が土木工事を含めたケーブル敷設工事を行なう。高圧受電盤以降は全て日本側にて行なう。

引込電圧は3相3線6.6KV50HZとし、受電容量は概略300KVAと想定される。敷地内地中埋設ケーブル工事は、ケーブル保護およびケーブル布設を考慮し、保護用配管および電力用マンホールを適所に設ける。

3) 受変電設備

新設電気室は、教室棟1階に設け、将来的な電力増および増築に対応できるスペースを確保する。

「ミ」国内の電力事情はあまり良くはなく、ヤンゴン市内においても、停電がたまにあり、電圧の変動も最大10%前後である。しかし、現施設についても、発電機、および定電圧調整器を設置していない現状を考慮し、新施設も設ける必要はないと思われる。ただし、他の設備および機材において、電子部品を多様している機器については、個別に考慮することとする。

高圧用遮断器は、保守管理の容易さを考慮し、真空遮断器を使用し、将来の電力増を考慮し、VCBカプラーにて対応できるようにする。変圧器は油入変圧器を止め、火災上および保守管理上の安全性、容易さを考慮し、乾式変圧器とする。変圧器容量は概略以下とする。

電灯・コンセント設備

| | | |
|----------|--------------|--------|
| 事務および教室棟 | 4,100㎡×40W/㎡ | =164Kw |
| ドミトリー棟 | 7,200㎡×20W/㎡ | =144Kw |
| その他(廊下等) | 680㎡×10W/㎡ | =7Kw |
| 小計 | | 315Kw |

動力設備

| | |
|----------|------|
| 給排水・衛生設備 | 35Kw |
| 空調設備 | 30Kw |
| 厨房設備 | 10Kw |
| 小計 | 75Kw |

合計 390Kw

電灯・コンセント設備および動力設備の需要率を0.6、力率を0.8とすれば必要変圧器容量は

$$(315\text{Kw} \times 0.6 + 75\text{Kw} \times 0.6) \div 0.8 = 293\text{KVA}$$

したがって、変圧器容量は300KVAとする。

4) 照明・コンセント設備

一般に開発途上国の室内照度は非常に低く、決して好ましい環境とはいえない。また、「ミ」国の雨季はしばしば雨具等が役に立たない程の降雨があり、かつ大変暗いため、雨季にも勉学に必要な最低限の明るさを確保する必要がある。

各室の照度は、IES (Illuminating Engineering Society) や JIS 規格の平均照度に準拠するのではなく、PUBLIC WORKSの電気技師と打ち合わせにより「ミ」国で通常使用されている設計基準照度を採用した。この値はIESおよびJIS基準値の低い方の値に該当する。

光源は省電力を考慮し、天井直付け蛍光灯を主体とし、一部エントランスホール、談話室等は白熱灯を併用し、部屋の用途に合わせる。また、スイッチ回路はできるだけ多くし、細かく点滅することにより省エネを考慮する。各室の設計基準照度は以下とする。なお、参考としてIESおよびJIS基準値を以下に記した。

| 室名 | 設計基準照度 (ルクス) | IES基準 (ルクス) | JIS基準 (ルクス) |
|------------|-----------------|----------------|----------------|
| — 教室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — 実習室 | 200~300 | 500~1,000 | 200~750 |
| — 実験室 | 200~300 | 500 | 200~750 |
| — 図書室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — 書庫 | 150~200 | 200~500 | 200~750 |
| — セミナー室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — 会議室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — 教員スタッフ室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — 事務室 | 200~300 | 200~500 | 200~750 |
| — ドミトリー居室 | 100~200 *1 | 200~500 | 75~300 |
| — 食堂 | 200~250 | 200~500 | 200~750 |
| — キッチン | 200~250 | 500~1,000 | 200~750 |
| — 倉庫 | 30~75 | 50~100 | 30~75 |
| — 便所、シャワー室 | 100~200 *2 | 100~200 | 75~300 |
| — 廊下 | 50~75 | 100~200 | 75~300 |

注) *1 ドミトリー居室内では、各自自習などを行なうことを考慮して、照度を設定。
*2 便所、シャワー室においては生徒が衣類の洗濯を行なうことを考慮して照度を設定。

外灯は入口エントランスを主体に建物周りに30~50m間隔にポール型水銀灯を設け、防犯対策をする。点滅は自動点滅器およびタイマーにより、自動点滅できるものとする。

コンセントは3極式B Sタイプを基本とし、各教室の前後に各2ヶ所、ドミトリーの各室に4ヶ所設ける。また洗濯場には将来洗濯機が設置できるように防水コンセントを設ける。

5) 電話設備

既存看護大学西側のMorton道路にM P T (Myanmar Posts & Telecommunication) の端子函 (Cross Connection Point NO.202) があり、ここより引込可能である。

日本側はこの端子函よりM D F (Main Distribution Frame) までのケーブル (50ペア) およびコンジットを供給し、「ミ」国側が土木工事を含めたケーブル敷設工事を行なう。

ただし、敷地内のマンホール、コンジットおよび土木工事は日本側にて施工する。新設施設の電話交換機 (P A B X) は局線8回線、内線32回線を教室棟事務室に設置する。

電話用受口は、将来、公衆電話器が設置できるように考慮し、P A B Xからの配線および電話器は以下のとおり設置する。なお、「ミ」国では計画停電を行なっているため、かつドミトリーも併設していることから、緊急時の連絡および受信が確実にできるようにする必要がある。したがって、P A B Xには4～5時間の停電に対応できるように、停電補償用バッテリーおよびバッテリーチャージャーを設ける。

P A B Xに接続される電話器

| | | |
|-------|------------|----|
| ドミトリー | 寮管理室 | 1 |
| | 厨 房 | 1 |
| 教室棟 | 学 長 室 | 1 |
| | レセプション | 1 |
| | 事 務 室 | 6 |
| | 教 員 室 | 5 |
| | コンファレンスルーム | 1 |
| | 図 書 室 | 1 |
| 小 計 | | 17 |

将来用、公衆電話用受口

| | | |
|-------|-------------------|---|
| ドミトリー | 1階 | 3 |
| 教室棟 | 1階エントランスホール、2階ホール | 3 |
| 食堂 | | 2 |
| 小計 | | 8 |

6) 放送設備

新施設では、大勢の学生が昼夜勉強し、また寄宿することになる。このため学生・職員への連絡および呼び出し用として、既存施設同様に放送設備が必要である。主放送装置(200W)を事務室に設置し、BGM、チャイム、プログラムコントローラ等は主架に設置する。

なお、既存施設の放送設備は火災警報盤と連動してオートアナウンスができる構造になっているが、その必要性があまり高くないことから、今回オートアナウンスは取り止めることとした。

スピーカは壁掛けを主体とし、各教室、事務室、教員室、食堂、廊下、その他の部屋に設置する。ただし、ドミトリーの各室にはスピーカを設置せず廊下のみスピーカを設置する。

主放送装置には、緊急時の連絡用として4～5時間の停電に対応できるようにバッテリーおよびバッテリーチャージャーを設置する。

7) インターホン設備

下記の部屋は電話機の設置は必要ないが、各室間の内部連絡を速やかに行なうために、インターホン設備が必要である。この設備は既存建物で有効に利用されており、かつ「ミ」国側から強い要請があった。

インターホン主装置を事務室に設置し、子機を次の各室に設置する。ただし、子機と子機、親機と子機は相互通話ができるものとする。

| | | |
|--------|-----------|----|
| 教室棟 | : 教員室 | 1 |
| | 1階、2階、その他 | 4 |
| | 学長室 | 1 |
| ドミトリー棟 | : 寮管理室 | 1 |
| 食堂棟 | : 食堂 | 1 |
| | 厨房 | 1 |
| その他 | : ガードハウス | 1 |
| | 電気室 | 1 |
| | 機械室 | 1 |
| 合計 | | 12 |

8) 時計設備

ドミトリー塔屋外壁には現施設同様、看護大学および地域のシンボルとなり得るような、電気式大時計を設置する。既存施設は、マスタークロックを事務室に設置し、放送チャイムと連動できるようになっているが、その必要性があまり高くないことから、今回はマスタークロックは取り止め、通常の電気式大時計を設備することとした。なお、電気式大時計は30時間の停電補償付きとし、学校の長期間の休みに対応する。

9) 火災報知設備

「ミ」国には、明文化された消火設備設置基準はないが、BSおよびシンガポールスタンダードを適用している。新施設の火災報知設備として、消防署からは手動火災警報設備 (Manual Call Point) を設置するように指導された。この設備は火災時に速やかに避難するために有効であり、既存施設にも設置されている。

ベル、赤色灯および押釦一体型の総合盤を各棟各階に設置し、一警戒区域を500㎡とし、各警戒区域毎に1ヶ所設けるものとする。30警戒区域をもった主火災警報盤 (主受信機) を事務室に設け、副受信機をドミトリー棟管理室に設置するし、夜間および長期休暇に対応する。主火災警報盤は4～5時間の停電に対応できるように、停電補償用バッテリーおよびバッテリーチャージャーを設ける。

10) 避雷針設備

塔屋部分を保護するように建物最高部には避雷針を設置する。避雷針の保護角60°に入らない他の棟については全て棟上げ避雷導体により保護する。引き下げ導体は30～40m間隔で設け接地し、各接地極の接地抵抗は10オーム以下とし、埋設標示板および試験用端子函を設ける。

11) 給水設備

敷地の北側および南側道路に150mmおよび225mmの市水道管が布設されているが時限給水 (朝7:00から朝10:00まで) であり、また水量・水圧とも不足している為、信頼性の上で問題がある。したがって、ヤンゴン市給水・衛生局とも打ち合わせた結果、既存大学同様、敷地内に深井戸を設け、井水を水源とした給水方式を採用することにした。深井戸より井戸ポンプにて給水された井水は濾過された後、貯水槽に一旦溜められ、薬液注入装置にて塩素滅菌した後、揚水ポンプにて高置水槽に送水し、重力式により建物内各施設に給水される。

深井戸は既設データよりケーシング口径250mm、深さ約60mとし、深井戸ポンプは口径100mm、揚水量45m³、揚程70mを想定している。井水を濾過するために使用するサンドフィルターの濾材は将来のスベアパーツの供給を考慮し、再生可能なタイプを使用する。給水に使用する配管材料は現地状況を考慮し、腐食に強く、安価で、施工の容易な水道用硬質塩化ビニル管を使用する。

① 使用水量

| | |
|--------------|-----------------------------------|
| 学 生 (寮での使用含) | : 470人 × 200ℓ /day = 94,000ℓ /day |
| 教官およびスタッフ | : 80人 × 100ℓ /day = 8,000ℓ /day |
| 散水、その他 | : 10,000ℓ /day |
| 合 計 | 112m ³ /day |

② 受水槽容量

1日使用量の50%を貯水するものとする
 $112\text{m}^3 \times 0.5 = 56\text{m}^3$ (6m × 6m × 2m H、FRP製隔壁付き)

③ 高置水槽

1日使用量の25%を貯水するものとする。
 $112\text{m}^3 \times 0.25 = 28\text{m}^3$ (5m × 2m × 3.5m H、FRP製隔壁付き)

④ 揚水ポンプ

1日使用時間を14時間とすると

毎時平均給水量 : $112\text{m}^3 \div 14\text{hr} = 8.0\text{m}^3/\text{hr}$
 毎時最大給水量 : $8.0\text{m}^3/\text{hr} \times 2 = 16.0\text{m}^3/\text{hr}$
 瞬時最大給水量 : $16.0\text{m}^3 \times 2 = 32.0\text{m}^3/\text{hr}$
 ポンプ : 600ℓ /min × 35m × 11kw (自動交互運転)

12) 排水設備

New Yangon General Hospital (JICA病院) 建設時に口径300mmの下水管がBogyoke Aung San道路に布設されており、新施設からの雑排水はこの下水管に接続することが可能である。

新設施設より排水される、雨水、汚水、雑排水は分流式にて排水され、汚水はセプティックタンク（浄化槽）により浄化された後、ソークピット（浸透枳）により地中に浸透される。なお、雨季には地下水位の上昇により浸透力が落ち、浄化槽がオーバーフローすることが予想されるため、ソークピットからオーバーフロー管を設け雑排水と共に下水管に放流する。シャワー、洗面器等からの雑排水は直接下水管に接続する。

雨水排水は既存大学西側フェンス沿いに雨水側溝が布設されており、この側溝に接続可能である。但し接続部分の側溝幅（約200mm）が狭いため多少改造の必要がある。

汚水、雑排水は日本側にて浄化槽を含めた敷地内最終枳までの管路工事を行ない、「ミ」国側は最終枳以降の土木工事を含めた下水管接続までの工事を行なう。また、敷地内の雨水排水は日本側にて行なうが、敷地外の雨水側溝、既存部分の側溝改修、および排水管路接続は「ミ」国側にて行なう。

13) 衛生器具設備

衛生器具の選定にあたっては、「ミ」国の生活様式を十分考慮に入れ、衛生面を十分考慮して計画する必要がある。

既存ドミトリーの大便秘器はミャンマースタイルを使用しているが、いつも床が濡れている状態であり衛生的とはいえず、水捌けには注意を要する。学校側より教員用は洋式便秘器、生徒用はミャンマー式便秘器の設置が希望されている。

既存シャワー室は身体を洗うことおよび洗濯をすることを目的として作られており、布切れ等により排水管が詰まる原因となっている。現実には生徒達は洗面所で洗濯をしているが、床排水口がないため、床がびしょびしょに濡れている。また洗濯干し場が余りにも狭く、通風も悪く、日も差さないため、新設施設ではこの点の改善が必要と思われる。

また、将来、電気洗濯機が設置されることも十分に考えられるため、そのスペース、電源、給排水を考慮する必要がある。衛生陶器は数量および納期の関係で第三国調達となると思われるが、TOTO、INAX、コーラ、アメリカンスタンダード等が現地にて入手可能であるため、これらメーカーの水栓類およびスペアパーツ類の調達は問題ないと思われる。

14) 消火設備

「ミ」国には、消防法等の明文化された消火設備設置基準はないが、BSおよびシンガポールスタンダードを適用している。新設施設の消火設備として、消防署からは屋内消火栓設備、消化ポンプ、連結送水管設備および消火器（4kg）を設備するように指導された。また、消化ポンプ用に発電機またはエンジン付き消化ポンプを要求されたが、消防署が比較的近くにあるうえ、当施設はその用途上、構造上、火災発生の危険度が極めて低く、モータ付き消化ポンプ（発電機またはエンジンは維持管理に問題があるため）を設備することにした。

消防車が容易に接近できる位置には送水口（サイヤミーズコネクション、BS 336）を設け、各階には消防隊員用の放水口（ホース接続口）を設ける。

さらに、消防車の水源として、防火用水槽（100㎡）を消防車が容易に接近できる位置に設ける。これは水道水が消火用として期待できないため、消防車用の水源を確保するために必要であり、既存施設にも設備されている。

15) 厨房設備

既存厨房設備は「ミャンマー様式」と呼ばれるもので、土窯で木屑を燃やして調理している。したがって調理中は厨房内はもちろん食堂内まで煙が充満している。このため大学側ではLPガスを使用した厨房を新たに建設中である。

新設施設の厨房は衛生面には特に注意し、上げ下げカウンターの分離や、食器洗浄シンク、食品庫、厨房員の専用便所等を考慮して計画する。厨房の規模としては、一日3回、各400食を供給できる規模とする。また、米食が主体であるため、LPガスを使用した炊飯器やガスレンジ等を設置する。

主要厨房機器としては下記を考慮する。

- ガス炊飯器 : 22kg × 4台
- ガスレンジ : 2口 × 2台
- フライヤー
- ガス回転釜 : 30kg × 1台
- シンク類

- 調理台、作業台類
- 食品棚、食器棚
- 冷蔵庫
- 冷凍庫

16) 空調・換気設備

既存大学の竣工時には冷房設備は設置されていなかったが、その後大学自身の手で、学長室、レセプションルーム、会議室および書庫にエアコンが設置されている。この現実を踏まえ、また「ミ」国の高温、多湿という気候・風土を考慮すると、最少限のエアコンは設備する必要がある、新施設内のこれらの部屋にもエアコンを設備する。

さらに供与機材の中に印刷機、OHP、スライドプロジェクター、ビデオプレーヤー、パソコン、コピー機等があり、また設備機器の中にも電話交換機、増幅器等の電子部品を使用した機器もある。したがって、これらの供与機材および設備機器を良好な状態に維持管理するためにも、事務室、コピー室、視聴覚機器保管室に空調は不可欠である。

また、要請機材リストの中にエアコンが要求されているが、建築および電気工事との取り合いを考慮し、建築設備に含めた方が適当と思われる。なお、空調負荷は $150\text{Kcal/h}\cdot\text{m}^3$ として機器を選定する。

エアコンを設置する部屋としては下記を考慮する。

- 学長室
- レセプションルーム
- 事務室
- コピー室
- 視聴覚機器保管室
- コンファレンスルーム
- 書庫

換気設備は自然換気を基本方針とするが、厨房および便所・湯沸室等で奥まった位置にならざるを得ない部屋のみ機械換気設備を設ける。

教室棟、食堂およびドミトリー等棟の各室には、「ミ」国にて一般的に使用されている天井扇を設置する。

(5) 建設資材計画

1) 基本方針

建設資材計画については、気候、風土、現地建設事情、工期、建設費および維持管理費等を考慮し、以下の点に留意する。

① 構造材

構造材は、現地での他の類似案件と同様、一般に採用されている鉄筋コンクリート造の躯体とレンガ積壁の組み合わせを基本とする。

② 仕上材

仕上材は、施工が容易で耐久性に富み、竣工後のメンテナンスがフリーとなるものと選定する。特に外壁・屋根等の主要な仕上材については建物の寿命にも影響してくると考えられるため、経済性を考慮し、耐久性のある材料を選定する。

2) 主要材料計画

建築の主要仕上は、現地建設事情、工期、建設費および維持管理費の低減を考慮し、以下を基本とする。

① 外 壁

屋 根 : アルミニウム鋼板、またはガルバニウム鋼板
外 壁 : エポキシ系ペイント仕上 (レンガ造の上モルタル下地)
建 具 : アルミ製建具、アルミフラッシュ戸、アルミ製ガラスルーバー窓、鋼製建具

② 内 壁

天 井 : モルタル下地、ペイント仕上
壁 : モルタル下地、ペイント仕上
床 : テラゾー研ぎ出し、テラゾー洗い出し、プラスチックタイル、磁器タイル、モルタル下地ペイント仕上、カーペットタイル

(6) 機材計画

本無償資金協力案件の最適案としての機材計画を策定するにあたっては「ミ」国の自然・社会条件、実施機関の維持管理能力、現地または第三国の資機材等の活用、機材グレードの設定条件等を勘案し、以下のような方針に基づいて設計することとした。

1) 自然・社会条件に対する方針

本大学の位置するヤンゴン市内は、最高気温38℃以上、最低気温が約15℃であり、また、特に機材の維持・管理に重要な湿度は一年中60%以上であるうえに、最高は100%とかなり高い。このような自然条件に加えて、電圧の変動、停電等の電力事情も考慮する必要がある、さらに空調設備も維持管理費節減の視点から最小限としなければならない。したがって、このような気候条件、機材周辺環境等に十分耐えうるような設計を行なう。また、本大学は「ミ」国の全看護学校に対して指導的立場にある教育機関であるため、他の看護学校に対しても教育活動に必要な教材または資料の提供、カリキュラムの作成等も実施しているため、本大学を中心としてミャンマー全国の看護学校に対する教育水準の向上に貢献可能となるよう計画を策定する方針である。

2) 実施機関の維持管理能力に対する方針

1986年度の我が国無償資金協力プロジェクトによって供与された既存機材の状況、機材維持管理体制の現状、関連省庁または組織によるバックアップ状況等を考慮した上で、さらに現地側に対して著しい体制の変革を強いることのないような機材選定を行なう方針とする。よって、特殊な保守管理技術や高価な補修部品を必要とするような機材は計画に含めないことを前提として設計を行なう。

3) 現地または第三国の資機材活用についての方針

機材納入後の維持管理費用および労力を極力軽減するため、可能な限り現地調達を行なうことを前提とし、現地調達が不可能な場合は近隣諸国で流通事情の良好なタイ、シンガポール等の第三国から調達する。さらにこれらの近隣諸国においても調達不能な場合に限ってに本調達を行なう方針とする。ただし、著しく品質が劣悪な場合、教育活動に悪影響を及ぼす可能性があるかと判断した場合にはこの限りではないものとする。

4) 機材グレードの設定に対する方針

本大学が「ミ」国における唯一の看護大学であり、将来的には大学院設置の計画があり、さらに他の看護学校に対しても指導的立場にあることから、同国における看護教育の水準向上に貢献することが可能となるようなグレードを考慮し、かつ現地側の維持管理費用および労力を軽減するよう配慮する。よって、既存機材の維持管理状況を詳細に把握したうえで、前プロジェクトで供与された機材とは大幅にことなるグレードの設定は避ける方針とする。

5) 工期に対する方針

自然・社会条件や現地側状況等を十分勘案し、さらに建築側工期との調整を行なったうえでの実施工期を設定する。また、本計画実施期間中に既存施設における教育活動、または事務作業等の業務への影響が最小限となるよう考慮する。特に、据付作業を必要とするような機材については、製造メーカーの工場等で出荷前に十分な協議を行なうことで、工期の短縮化、円滑化を図る。

① 講義用機材

a. 医学図書／印刷機

医学図書は必要性は高いものの、他の援助機関から既に支援を受けており、また現地側が図書よりも印刷機の方を強く要望していることから、医学図書は削除することとする。印刷機についてはヤンゴン市内にメーカー代理店が存在し、スペアパーツや消耗品の調達、故障時にも即対処可能であるため、計画対象機材として問題はないと考えられる。

b. 人体模型

基本的には講義説明用を使用する模型は1台あれば十分と考えられる。ただし、既存の模型がある品目については削除することとした。また、必要以上の仕様となっているもの、電動式となっているもの等は維持管理費の軽減という観点から削除することとした。

c. 視聴覚機器

OHP、スライドプロジェクター、ビデオプレーヤー等は頻繁に活用されており、特に使用頻度の高いOHPは毎回講義で使用されているため、数量を追加する必要に迫られている。このため、10教室に対して半分の5教室が同時に使用可能となるよう計画し、さらに会議室やセミナー室においても必要なため、教室用として5台、会議室/セミナー室用として1台の計6台は最低必要であると考えられる。スライドプロジェクターはOHPに比較すると使用頻度はやや低く、台数は既存の台数で間に合っている。しかし、スライド作成のためのカメラが必要であるため、カメラの要請は妥当であると考えられる。また、これらの機材を使用するうえでのスライドシート、スライド、ビデオソフト等の消耗品またはソフトウェアは、WHO、UNICEF等、他の援助機関より支援を受けているため、計画に含む必要はないと判断される。また、ビデオデッキおよびモニターは教育活動にはかかせないものであるため、最低1式は必要であると考えられる。

語学訓練用のテープレコーダーは1クラスの学生数を25人に設定することで教職員の負担を軽減し、テープレコーダーを学生1人に対して1台、計25台とすることで学習効果を向上させる必要があると考えられる。

「ミ」国は年間を通して湿気が80%前後と非常に高いため、夜間や休日等、授業のない場合には保管するための保管庫が必要であるが、同室内には機材保護の観点から、エアコンまたは除湿器が必要であると考えられる。

② 実験用機材

学生が卒業後に配置される医療施設には必ずしも臨床検査技師がいるとは限らないため、自分で臨床検査を行わなければならない場合も想定しなければならない。よって、在学期間中に簡易な臨床検査方法はマスターしなければならないため、現在不足している分光光度計、ヘマトクリット遠心器、恒温槽等の最も基礎的な機材を計画に含める必要があると考えられる。また、ガラス器具類は最も基礎的な器具の一つであるにも拘らず数量が不足しており、また、使用時には割れる可能性も大きいため、若干数量を多めに計画する必要がある。

③ 実習用機材

a. 人体模型

実習は50人1クラスを前提としている。実習用のモデルの設定、台数はその使用目的、頻度に合わせて決定する必要がある。実習モデルは使用頻度が高く、5人に1台は必要であるが、使用可能な既存モデルが6台あるため、不足数4台を供与する計画とした。乳癌触診練習器、気管内挿練習用モデル等はその使用頻度から各2台ずつ、分娩ファントムは3台、人工呼吸器は1台のみとした

実習用人体模型は多目的に活用可能な機能を有するため、これをフルに活用することを前提とすることで、兼用可能なモデルは削除する方針とした。よって同モデルは機能的な観点から、第三国調達是不適切であると考えられる。また、要請書には含まれていないが、当方より提案した骨盤経線模型、挿管練習用モデル、人工呼吸練習用モデル等の追加モデルに関しては現地側からも追加希望してきており、追加は妥当であると考えられる。

b. パーソナルコンピュータ

近年ヤンゴン市内において、パーソナルコンピュータが急速に普及しつつあることは明白に認められるが、学生が卒業後に配置される中央または地方の保健医療施設、あるいは保健医療関連省庁では、異なるメーカー、機種、ソフトウェア等のコンピュータになる可能性が高い。このため、本大学における講義内容は、基本的な原理の説明や基本操作訓練に限られている。したがって、1クラス50人の講義においては2台のパソコンで十分対応可能であると考えられる。

④ 事務機器

コピー機は印刷機とともに教職員、または学生向けの資料の作成、また、事務作業用としても必要性は高い。さらに図書室においても、教職員や学生が必要な文献から部分的に複写する必要がある。よって、教職員室用2台、事務室用1台、図書室用1台の計4台は必要であると考えられる。ただし、室内の湿度が高い場合には故障頻度も高くなるため、これらの室内は空調が必要である。

その他の事務機の要請は、タイプライター、手動式製本機、ペーパーカッター強力パンチ、ホッチキス、電卓、鉛筆削り、ガンタッカー等があるが、このうちタイプライターは必要性も高く、「ミ」国でも普及

しており、メーカー代理店等もあるため、要請は妥当であると考えられる。手動式製本機はオフセット印刷機や輪転機等で複写した資料を製本するためのものであるため、これらの機材と同様に計画に含める必要がある。また、ペーパーカッター、強力パンチは必要性はあるものの現地での調達には困難であるため、第三国での調達が望ましいと考えられる。しかし、電卓、鉛筆削り、ガンタッカー等は「ミ」国内で安価に入手可能なものであるため、現地側負担とする方が望ましいと判断される。

⑤ 車 両

学生実習のための車両使用頻度は過去1年間において、30人乗りバスで2,586台/日となっており、年間300日として計算しても、1日当たりの平均必要車両台数は、 $2,586\text{台}/\text{日} \div 300\text{日} = 8.6 \approx 9\text{台}$ となる。既存車両は12人乗のマイクロバスが1台、2トントラックが1台、乗用車が1台の計3台であるが、乗用車は職員の移動用に使用するのが限度であるため、学生搬送用として使用しているのはマイクロバスとトラックのみである。したがって、それ以上の台数は外部から有料で借用することになる。また、学生を搬送する場合には、1台当たり最低でも30人以上、通常は40人以上搭乗している。よって既存の12人乗マイクロバスを使用する場合には最低3回は往復しなければならない。また、トラックの場合でも40人以上が搭乗するのはすし詰め状態である。さらに、これら既存の車両をフルに活用しても、残り7台(9台-2台)は外部から借用することになる。これらの車両を使用するための経費は前述のように学生も負担している。

このような状況から、1年間のうちには若干波があるとしても、30人乗バスを2台、4トントラック1台の要請内容は最低限の要望であると考えられる。また、これらの車両を供与することによって、現在学生が負担している分の経費を無料とすることも可能となる。特に燃料費等についても関連特別安価に入手できる体制になっているため、維持管理費についても問題はないと考えられる。

⑥ 家 具

既存の施設で著しく家具が不足していること、必要家具数が数千点に上ることから、すべて現地側負担とすることは無理であると考えられる。したがって、全教室分の椅子600点、寮用ベッド400点、机400点、椅子400点、整理棚400点等、主要かつ台数の多い家具類については計画に含める必要があると考えられる。

⑦ その他

要請内容には試薬類も含まれていたが、これらの試薬類は全て消耗品であり、基本的に現地側負担であると判断されたため、全面的に削除した。また、庭園用機材等も看護教育とは関連しないものとして削除した。語学教育用機材についても保守管理に特殊技術を必要とする内容となっていたため、特殊な品目は全て削除した。P S Aシステムに関する要請内容は、講堂等で使用するスピーカーシステムであり、使用頻度も高いため、要請は妥当であると判断された。また、エアコン、扇風機等は部屋の規模、使用目的、配置等、建築と密接に関係するため、建築側ポーションとした。さらに発電機の要請については必要性が低いと判断されたため、削除することとした。

機材の選定にあたっては以下に述べる項目に合致しない機材は削除または代替案を提言する。

- A. 看護教育用機材である。
- B. 教育目標、教育内容、施設規模、学生数等との整合性がある。
- C. 高温多湿の気候条件、サイト周辺環境、施設設備に適応可能である。
- D. 現状を改善するための機材で、運営体制の極端な変革を必要としない機材である。
- E. 将来の更新時に大学独自の予算で購入が可能である。
- F. 財政上および技術的に運営維持管理が可能と判断される。
- G. 消耗品・試薬類でない。
- H. 機能、数量等が重複していない。
- I. 保守管理が比較的簡易な機材である。
- J. 同国内、または周辺国に代理店があり、消耗品や予備部品等が比較的容易に調達可能である。
- K. 現地側で対処不可能である。
- L. 施設設備ではない。

上記の基準を満たす機材は「表 3-10」のとおりである。なお、その他機材についての検討結果を後述する。

表3-10 (日本調達機材リスト)

9/14/1995

| Code | Item No. | Equipment | 機材名 | 数量 |
|------|----------|------------------------------------------|------------------|-----|
| 1 | ML-1 | COMBINATION TORSO (A) | 人体解剖模型 (胴:A) | 1 |
| 2 | ML-2 | COMBINATION TORSO (B) | 人体解剖模型 (胴:B) | 18 |
| 3 | ML-3 | MALE FIGURE | 人体解剖模型 (男子) | 1 |
| 4 | ML-4 | FEMALE FIGURE | 人体解剖模型 (女子) | 1 |
| 5 | ML-5 | HUMAN SKELTON, MALE | 人体骨格模型 (男子) | 1 |
| 6 | ML-6 | HUMAN SKELTON, FEMALE | 人体骨格模型 (女子) | 1 |
| 7 | ML-7 | ARTERIES OF THE BRAIN | 脳の動脈模型 | 1 |
| 8 | ML-8 | HEART | 心臓構造模型 | 1 |
| 9 | ML-9 | DYNAMIC HEART, HAND-WORKED | 手動式心臓模型 | 1 |
| 10 | ML-11 | RESPIRATORY ORGANS | 呼吸器模型 | 1 |
| 11 | ML-12 | DIGESTIVE SYSTEM | 消化器系統模型 | 1 |
| 12 | ML-13 | URINARY ORGANS | 泌尿器系統模型 | 1 |
| 13 | ML-14 | LIVER AND GALLBLADDER | 肝臓・胆嚢模型 | 1 |
| 14 | ML-14 | SKIN, MICROSCOPICAL STRUCTURE | 皮膚構造模型 | 1 |
| 15 | ML-16 | TRANSPARENT FEMALE PELVIS | 透明婦人骨盤模型 | 1 |
| 16 | ML-17 | TWIN PREGNANCY | 双胎妊娠模型 | 1 |
| 17 | ML-18 | NOMAL PREGNANCY | 正規妊娠模型 | 1 |
| 18 | ML-19 | FETAL CIRCULATORY SYSTEM | 胎児の循環模型 | 1 |
| 19 | ML-20 | BIRTH-FIRST STAGE | 分娩 (第1期) 模型 | 1 |
| 20 | ML-21 | BIRTH-SECOND STAGE | 分娩 (第2期) 模型 | 1 |
| 21 | ML-22 | BIRTH-THIRD STAGE | 分娩 (第3期) 模型 | 1 |
| 22 | ML-23 | CONCEPTION THEORY MODEL | 受精原理模型 | 1 |
| 23 | ML-24 | LOCHIA MODEL, 10 KINDS PER SET | 悪露模型 | 1 |
| 24 | ML-25 | CONJUNCTIVITIES AND TRACHOMA MODEL | 結膜炎・トラコーマ模型 | 1 |
| 25 | ML-26 | DEVELOPMENTAL STAGES OF BEDSORE MODEL | 褥瘡経過模型 | 1 |
| 26 | ML-27 | VENEREAL DISEASE MODEL, MALE, 20 KINDS | 性病模型 (男子) | 1 |
| 27 | ML-28 | VENEREAL DISEASE MODEL, FEMALE, 20 KINDS | 性病模型 (女子) | 1 |
| 28 | ML-29 | FEMALE PELVIS | 骨盤経線模型 | 1 |
| 29 | ML-30 | DEVELOPMENT OF FOETUS | 妊娠子宮模型 | 1 |
| 30 | PR-1 | TRAINING DOLL | 実習モデル | 4 |
| 31 | PR-2 | BREAST CANCER PALPATION SIMULATOR | 乳癌触診練習器 | 2 |
| 32 | PR-3 | INTUBATION SIMULATOR WITH LARYNX, CHILD | 気管内挿管練習用モデル (小児) | 2 |
| 33 | PR-4 | INTUBATION SIMULATOR WITH LARYNX, ADULT | 気管内挿管練習用モデル (成人) | 2 |
| 34 | PR-5 | CHILD BIRTH PHANTOM | 分娩ファントム改良形 | 3 |
| 35 | PR-6 | SIMULATOR (FIRST AID) | 人工呼吸訓練人形 | 1 |
| 36 | PR-7 | SCALE FOR INFANTS | 体重計 (小児用) | 3 |
| 37 | PR-8 | BABY RULE | 新生児用身長計 | 2 |
| 38 | PR-9 | HEIGHT AND WEIGHING SCALE FOR ADULTS | 身長/体重計 (成人用) | 2 |
| 39 | PR-10 | CATHETEL SET | カテーテルセット | 1 |
| 40 | LB-1 | BLOOD TEST SET FOR HB | ヘモグロビン検査セット | 20 |
| 41 | LB-2 | TABLE-TOP CENTRIFUGE | 卓上型遠心分離機 | 2 |
| 42 | LB-3 | WINTROBE TUBES | ウイントロブ管 | 50 |
| 43 | LB-4 | CLINICAL SPECTROPHOTOMETER | 分光光度計 | 1 |
| 44 | LB-5 | SPECIFIC BLOOD-GRAVITY TEST SET | 尿比重計 | 4 |
| 45 | LB-6 | CLINICAL REFRACTOMETER | 臨床屈折計 | 2 |
| 46 | LB-7 | WATER BATH | 恒温水槽 | 1 |
| 47 | LB-8 | MIXER, FOR SMALL CONTAINERS | 小型容器用ミキサー | 1 |
| 48 | LB-9 | HEMATOCRIT CENTRIFUGE | ヘマトクリット遠心分離機 | 2 |
| 49 | LB-10 | HEMATOCRIT CAPILLARY TUBE | ヘマトクリット毛細管 | 100 |

表3-10 (日本調達機材リスト)

9/14/1995

| Code | Item No. | Equipment | 機材名 | 数量 |
|------|----------|------------------------------------------|--------------------------|-----|
| 50 | LB-11 | MAGNETIC STIRRER, WITH HOT PLATE | マグネティックスターラ | 2 |
| 51 | LB-12 | PIPET WASHER | ピペット洗浄乾燥器 | 2 |
| 52 | LB-13 | pH-METER | pH計 | 1 |
| 53 | LB-14 | BALANCE | 天秤 | 1 |
| 54 | LB-15 | INCUBATOR | ふ卵器 | 1 |
| 55 | LB-16 | WATER, STILL, 5 Liter/min | 蒸留水製造装置 | 1 |
| 56 | LB-17 | BINOCULAR MICROSCOPE | 顕微鏡 | 5 |
| 57 | LB-18 | LABORATORY STERILIZER | 検査室用滅菌器 | 1 |
| 58 | LB-19 | OVEN | オーブン | 1 |
| 59 | GL-1 | ASPIRATOR, METAL | アスピレータ | 20 |
| 60 | GL-2 | BEAKER, TALL FORM, 100mL | 目安目盛付ビーカー (100mL) | 20 |
| 61 | GL-3 | BEAKER, TALL FORM, 200mL | 目安目盛付ビーカー (200mL) | 20 |
| 62 | GL-4 | BEAKER, 500mL | 目安目盛付ビーカー (500mL) | 20 |
| 63 | GL-5 | BOTTLE, REAGENT, CLEAR 1000mL | 試薬ビン (1000mL) | 20 |
| 64 | GL-6 | BOTTLE, REAGENT, CLEAR 100mL | 試薬ビン (100mL) | 40 |
| 65 | GL-7 | BOTTLE, REAGENT, CLEAR 2000mL | 試薬ビン (2000mL) | 20 |
| 66 | GL-8 | BOTTLE, REAGENT, CLEAR 250mL | 試薬ビン (250mL) | 40 |
| 67 | GL-9 | DOPPING BOLLTE CLEAR, 50mL | スポイト | 20 |
| 68 | GL-10 | BURET, AUTOMATIC, 50mL, W/TEFLON CONCK | コック付自動ビュレット | 20 |
| 69 | GL-11 | BURET, STRAIGHT BORE, STOPCOCK, 25mL | ビュレット (25mL) | 20 |
| 70 | GL-12 | BURET, STRAIGHT BORE, STOPCOCK, 50mL | ビュレット (50mL) | 20 |
| 71 | GL-13 | CLAMP, STEEL, LARGE SIZE FOR FLASK | フラスコ用クランプ (大) | 20 |
| 72 | GL-14 | CLAMP, STEEL, MEDIUM SIZE FOR FLASK | フラスコ用クランプ (中) | 20 |
| 73 | GL-15 | CORK BORER, 12 PCS/SET | コルク栓 | 20 |
| 74 | GL-16 | CUP, POLYETHYLENE, 100mL, 100 pcs/box | ポリエチレンカップ | 40 |
| 75 | GL-17 | CYLINDER, GRADUATED 1000mL | メスシリンダー (1000mL) | 20 |
| 76 | GL-18 | CYLINDER, GRADUATED 500mL | メスシリンダー (500mL) | 20 |
| 77 | GL-19 | CYLINDER, GRADUATED 100mL | メスシリンダー (100mL) | 40 |
| 78 | GL-20 | CYLINDER, GRADUATED 50mL | メスシリンダー (50mL) | 40 |
| 79 | GL-21 | DESCICCATOR, 300W x 345D x 535H mm | デシケータ | 20 |
| 80 | GL-22 | DIGITAL STOP WATCH | デジタルストップウォッチ | 20 |
| 81 | GL-23 | ERLENMEYER FLASK, 300mL | 三角フラスコ (300mL) | 20 |
| 82 | GL-24 | FILTERING BOTTLE, 1L | ろ過瓶 | 20 |
| 83 | GL-25 | FILTERING BOTTLE, PORCELAIN, ϕ 11cm | ろ過瓶、磁器 | 20 |
| 84 | GL-26 | FILTERING PAPER, 9cm, 100 sheets/box | ろ過紙 | 20 |
| 85 | GL-27 | FLASK, VOLUMETRIC, WITH STOPPER, 1000mL | 目盛付共栓三角フラスコ | 20 |
| 86 | GL-28 | FLASK, VOLUMETRIC, WITH STOPPER, 500mL | 目盛付共栓三角フラスコ | 20 |
| 87 | GL-29 | HOSE BAND, FOR VACUUM RUBBER TUBING | ホースバンド | 20 |
| 88 | GL-30 | LID FOR SCREW TUBE 20cc, 50 pcs/box | スクリュー瓶の蓋 | 40 |
| 89 | GL-31 | PINCH COCK, MOHR TYPE | モールピンチコック | 40 |
| 90 | GL-32 | PINCH COCK, HOFFMAN TYPE | ホフマンピンチコック | 40 |
| 91 | GL-33 | PIPET, MEASURING, 1mL | メスピペット (中間目盛、1mL) | 100 |
| 92 | GL-34 | PIPET, MEASURING, 2mL | メスピペット (中間目盛、2mL) | 40 |
| 93 | GL-35 | PIPET, MEASURING, 5mL | メスピペット | 20 |
| 94 | GL-36 | PIPET, VOLUMETRIC, 10mL | 全量ピペット (10mL) | 20 |
| 95 | GL-37 | POLYETHYLENE BOTTLE, 100cc | ポリエチレン規格ビン100mL | 20 |
| 96 | GL-38 | POLYETHYLENE BOTTLE, 300cc | ポリエチレン規格ビン300mL | 20 |
| 97 | GL-39 | RACK FOR BURET, PVC | ビュレット立て | 40 |
| 98 | GL-40 | ROD, GLASS, 6mm ϕ x 1.5M | ガラス棒 (6mm ϕ x 1.5M) | 20 |

表3-10 (日本調達機材リスト)

9/14/1995

| Code | Item No. | Equipment | 機材名 | 数量 |
|------|----------|-------------------------------------------|----------------|----|
| 99 | GL-41 | RUBBER TUBING FOR VACUUM, 6mmΦ x 18mmΦ | 吸引用ゴム管 | 20 |
| 100 | GL-42 | SCREW TUBE, WITH LID, 20cc, 50 pcs/box | スクリー管、蓋付 | 20 |
| 101 | GL-43 | SILICON TUBING, 6mmΦ x 10mmΦ x 50M | シリコンチューブ | 20 |
| 102 | GL-44 | SPIN BAR, TEFLON COATED, 20mm | 駒込ピペット (10mL) | 40 |
| 103 | GL-45 | SPOIT, FOR KOMAGOME TYPE, 10mL, 100/b | 駒込スポイト | 20 |
| 104 | GL-46 | STOPPER, CORK, 500 pcs/box, SEVERAL SIZES | ストッパー、コルク | 20 |
| 105 | GL-47 | TEST TUBE RACK, STAINLESS STEEL F/16.5 | ステンレス製試験管立て | 20 |
| 106 | GL-48 | TEST TUBE, WITH RIM, 21Φ 200 mL | リップ付試験管 | 20 |
| 107 | GL-49 | TEST TUBE, 16.5mmΦ 165mm | リップ付試験管 | 40 |
| 108 | GL-50 | TEST TUBE, 18mm O.D. Φ 165mm | リップ付試験管 | 20 |
| 109 | GL-51 | THERMOMETER 0~200℃, ALCOHOL | 温度計 (0~200℃) | 40 |
| 110 | GL-52 | WASHING BOTTLE, POLYETHYLENE, 500mL | ポリエチレン洗浄ビン | 40 |
| 111 | GL-53 | TEST TUBE HOLDER | 試験管挟み | 40 |
| 112 | GL-54 | ALCOHOL LAMP | アルコールランプ | 40 |
| 113 | GL-55 | WIRE GUAGE (12cm x 12cm) | ワイヤーゲージ | 20 |
| 114 | GL-56 | PIPET BULB | ピペットバルブ | 40 |
| 115 | GL-57 | FUNNEL SEMDIA | ロート | 20 |
| 116 | ED-1 | TV MONITOR WITH VIDEO PLAYER | TV台セット | 4 |
| 117 | ED-2 | SLIDE PROJECTOR (A) | スライドプロジェクターA | 3 |
| 118 | ED-3 | SLIDE PROJECTOR (B) | スライドプロジェクターB | 1 |
| 119 | ED-4 | OVERHEAD PROJECTOR | オーバーヘッドプロジェクター | 6 |
| 120 | ED-5 | VIDEO CAMERA | ビデオカメラ | 1 |
| 121 | ED-6 | SPEAKER SYSTEM | スピーカーシステム | 2 |
| 122 | ED-7 | PORTABLE SCREENS (A) | 移動式スクリーン (A) | 6 |
| 123 | ED-8 | PORTABLE SCREENS (B) | 移動式スクリーン (B) | 1 |
| 124 | ED-9 | FLIP CHART STAND | チャートスタンド | 18 |
| 125 | ED-10 | WALL CHART (A) | 掛図 (A) | 1 |
| 126 | ED-11 | WALL CHART (B) | 掛図 (B) | 18 |
| 127 | ED-12 | DOUBLE CASSETTE RECORDER | ダブルカセットレコーダー | 1 |
| 128 | ED-13 | AUDIO CASSETTE RECORDER AND PLAYER | オーディオカセットレコーダー | 25 |
| 129 | ED-14 | CAMERA WITH ACCESSORIES | カメラ (アクセサリ付) | 1 |
| 130 | OF-1 | COMPLETE OFF-SET PRINTING SYSTEM | オフセット印刷機 | 1 |
| 131 | OF-2 | GESTETHNER MACHINE | 輪転機セット | 1 |
| 132 | OF-3 | SCHOOL BUS (DIESEL) | スクールバス (ディーゼル) | 2 |
| 133 | OF-4 | TRUCK (DIESEL) | トラック (ディーゼル) | 1 |

表3-10 計画機材リスト (第三国調達機材リスト)

9/14/1995

| Code | Item No. | Equipment | 機材名 | 数量 |
|------|----------|----------------------------|-----------------|----|
| 134 | PR-11 | DRESSING CARTS | 器械台 | 2 |
| 135 | PR-12 | STERILIZING DRUMS | 滅菌缶 | 2 |
| 136 | PR-13 | BED PANS | ベッドパン | 5 |
| 137 | ED-15 | GREEN BOARD | 黒板 | 15 |
| 138 | ED-16 | GREEN BOARD, MOVABLE | 移動用黒板 | 5 |
| 139 | ED-17 | NOTICE BOARD | 掲示板 | 20 |
| 140 | OF-5 | MANUAL PUNCH/BIND MACHINE | 手動製本器 | 2 |
| 141 | OF-6 | PAPER CUTTERS | ペーパーカッター | 3 |
| 142 | OF-7 | HEAVY DUTY STAPLES | ステープラー | 3 |
| 143 | OF-8 | HEAVY DUTY PUNCHES | 強力パンチ | 4 |
| 144 | OF-9 | METAL BOOK TRUCK | 図書カート | 3 |
| 145 | OF-10 | CARD CABINET FOR LIBRARY | カードキャビネット | 2 |
| 146 | OF-11 | SHELF FOR PREPARATION ROOM | 実験準備室戸棚 (ステンレス) | 4 |
| 147 | LB-20 | EXAMINATION TABLE | 実験台 | 12 |
| 148 | LB-21 | SINK | 流し台 | 2 |

表3-10 計画機材リスト (現地調達機材リスト)

9/14/1995

| Code | Item No. | Equipment | 機材名 | 数量 |
|------|----------|---------------------------------|------------------|-----|
| 149 | OF-12 | COPY MACHINE | 複写機 | 4 |
| 150 | OF-13 | COMPUTER | コンピュータ | 2 |
| 151 | OF-14 | PRINTER | レーザープリンタ | 1 |
| 152 | OF-15 | ENGLISH TYPEWRITER PICA, MANUAL | 英文タイプライター (手動) | 6 |
| 153 | LB-22 | REFRIGERATOR | 冷蔵庫 | 2 |
| 154 | FN-1 | BED | ベッド | 402 |
| 155 | FN-2 | BED FOR DEMONSTRATION ROOM | 実習室用ベッド | 10 |
| 156 | FN-3 | WOOD CASE FOR TRAINING DOLL | 実習モデル保管庫 | 2 |
| 157 | FN-4 | ARMED CHAIR | 椅子 (腕付) | 210 |
| 158 | FN-5 | STUDENT CHAIR | 学生用椅子 | 600 |
| 159 | FN-6 | DESK FOR CLASSROOM | 学生用机 | 296 |
| 160 | FN-7 | STOOL | 丸椅子 | 57 |
| 161 | FN-8 | OFFICER CHAIR | 学長用椅子 | 3 |
| 162 | FN-9 | DINING CHIR | 椅子 (腕無し) | 781 |
| 163 | FN-10 | CHAIR FOR RECEPTION ROOM | 応接用椅子 | 24 |
| 164 | FN-11 | ARMLESS CHAIR | 図書室用椅子 | 108 |
| 165 | FN-12 | PLATFORM | 教壇 | 10 |
| 166 | FN-13 | OFFICER DESK | 学長用両袖机 | 1 |
| 167 | FN-14 | DOUBLE PEDASTAL DESK | 両袖机 | 3 |
| 168 | FN-15 | SINGLE PEDASTAL DESK | 片袖机 | 466 |
| 169 | FN-16 | TABLE | テーブル | 175 |
| 170 | FN-17 | LONG HIGH DESK | 図書室用テーブル (大) | 10 |
| 171 | FN-18 | CENTRE TABLE | 中央テーブル | 4 |
| 172 | FN-19 | LECTURERS TABLE | 講師用机 | 10 |
| 173 | FN-20 | DEMONSTRATION TABLE | デモ机 (講師用) | 1 |
| 174 | FN-21 | OFFICE ALMIRAH | キャビネット (木製) | 5 |
| 175 | FN-22 | ALMIRAH | ガラス戸付キャビネット | 5 |
| 176 | FN-23 | CUPBOARD | 整理棚 | 400 |
| 177 | FN-24 | SHELF | 戸棚 | 10 |
| 178 | FN-25 | BOOK CASE W/ GLASS | ガラス本棚 | 10 |
| 179 | FN-26 | DISPLAY CASE | 展示棚 | 5 |
| 180 | FN-27 | BOOKSHELF FOR LIBRARY | 図書室用本棚 | 56 |
| 181 | FN-28 | COUNTER (ROUND TYPE) | 図書室用受付カウンター (丸型) | 1 |
| 182 | FN-29 | COUNTER (SQUARE TYPE) | 図書室用受付カウンター (角型) | 1 |

| | |
|---------------|-------|
| 家具合計点数 (FNのみ) | 3,666 |
|---------------|-------|

要請機材を前述の選定条件に基づいて検討した結果を「表3-11」に示す。最終的に選定した機材は同表の最終採用の欄で◎印を記したもので、さらに当初要請ならびに追加要請については、基本設計調査出発前後に先方より提出された要請機材である。

表3-11 機材検討結果 (1/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | | |
| 1 | 実習モデル | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 包帯練習人形 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 3 | 人体解剖模型 (胴：A) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 人体解剖模型 (胴：B) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 人体解剖模型 (男子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 人体解剖模型 (女子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 上肢模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 8 | 下肢模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 9 | 人体骨格模型 (男子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 人体骨格模型 (女子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 頭骨分解模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 12 | 頭部解剖模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 13 | 脳模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 14 | 脳模型 (半載) | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 15 | 脳の動脈模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 脊椎各部形状模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 17 | 脊椎横断分解模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 18 | 脊椎神経伝導・反射経路模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 19 | 神経繊維・神経細胞模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 20 | 脊椎・脊髄管模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 21 | 交換神経系模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 22 | 脊髄神経模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 23 | 脳及び神経系模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 24 | 血液循環系模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 25 | 神経系・循環系・門脈系模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 26 | 心臓構造模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | 冠状動脈模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 28 | 刺激伝導系・冠動脈模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 29 | 心電図付電動心臓模型 | ○ | | | | × | × | | | | | | × | | | | | |
| 30 | 手動式心臓模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | 電動式心臓模型 | ○ | | | | × | × | | | | | | × | | | | | |
| 32 | 透明三臓模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 33 | 三臓模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 34 | 透明肺区域模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 35 | 呼吸器模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 36 | 喉頭模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 37 | 鼻腔・咽頭・喉頭模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 38 | 気管支・肺区域動静脈模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 39 | 気管支・肺動静脈模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 40 | 気管支模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 41 | 気管支・肺区域模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 42 | 肺胞拡大模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |
| 43 | 頭部半載模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | | |

表3-11 機材検討結果 (2/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | |
| 44 | 舌・喉頭模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 45 | 鼻腔解剖模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 46 | 胃模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 47 | 下顎骨付歯の構造模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 48 | 複製歯牙模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 49 | ビオレー病理模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 50 | 歯列発育模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 51 | 消化器系統模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 52 | 腸解剖模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 53 | 腎臓構造模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 54 | 泌尿器系統模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 55 | 腎臓組織模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 56 | 腎臓マルピギー氏小体模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 57 | 腎臓・ネフロン・糸球体模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 58 | 肝臓・胆嚢模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 59 | 肝臓組織模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 60 | 耳の構造模型 (特大型) | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 61 | 耳の構造模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 62 | 目の構造模型 (特大型) | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 63 | 目の構造模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 64 | 皮膚構造模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 65 | 皮膚裁断模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 66 | 児頭廻旋シミュレータ | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 67 | 分娩ファントム | ○ | | | | × | × | | | | | | × | | | | |
| 68 | 男子生殖器 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 69 | 女子生殖器 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 70 | 女性骨盤模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 71 | 透明女性骨盤模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 72 | 子宮模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 73 | 女性骨盤模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 74 | 児頭付女性骨盤模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 75 | 胎児発育順序模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 76 | 双胎妊娠模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 77 | 横位妊娠模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 78 | 骨盤狭窄妊娠模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 79 | 前置胎盤妊娠模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 80 | 正規妊娠模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 81 | 胎児の循環模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 82 | 分娩 (第1期) 模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 83 | 分娩 (第2期) 模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 84 | 分娩 (第3期) 模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 85 | バイタルサイン模型 | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |
| 86 | 沐浴人形 (男児) | ○ | | | | × | | | | | | | × | | | | |

表3-11 機材検討結果 (3/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | |
|-----|------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L |
| 87 | 沐浴人形 (女児) | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 88 | 沐浴セット | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 89 | 胎内循環と胎外循環模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 90 | 乳幼児心肺蘇生訓練人形 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 91 | 受胎調節指導模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 92 | 受胎調節指導標本 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 93 | 受胎原理模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 94 | 血圧測定練習器 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 95 | 採血・静注シミュレータ | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 96 | 導尿・浣腸練習器 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 97 | 乳房マッサージ練習器 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 98 | 乳癌触診練習器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 99 | 生理解剖図 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 100 | 悪露模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 101 | 寄生虫種類標本 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 102 | 病原菌模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 103 | 人体寄生虫寄生状態模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 104 | コレラ腸模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 105 | 赤痢腸模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 106 | チフス腸模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 107 | 法定伝染病模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 108 | 結膜炎・トラコーマ模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 109 | 褥瘡経過模型 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 110 | 小児糞便模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 111 | 臍炎模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 112 | ツベルクリン反応模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 113 | う歯と健康歯模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 114 | 虫歯経過拡大模型 | ○ | | | | × | | | | | | × | | | | |
| 115 | 性病模型 (男子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 116 | 性病模型 (女子) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 117 | 気管内挿管練習用モデル (幼児) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 118 | 気管内挿管練習用モデル (成人) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 119 | 分娩ファントム改良形 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 120 | 人工呼吸訓練人形 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 121 | 骨盤経線模型 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 122 | 妊娠子宮模型 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 123 | 頭骨分解模型 | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 124 | 歯の構造模型 | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 125 | 喉頭模型 | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 126 | 舌・喉頭模型 | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 127 | 沐浴人形 (男児) | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 128 | 沐浴人形 (女児) | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |
| 129 | 鼻腔・咽頭・喉頭模型 | | ○ | | | × | | | | | | × | | | | |

表3-11 機材検討結果(4/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | | |
|-----|------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | |
| 130 | Hb検査キット | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 131 | 純水製造装置 | ○ | | | | | | | | × | | | | × | × | | |
| 132 | 生物顕微鏡 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 133 | 赤血球沈降速度測定器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 134 | 卓上型遠心分離機 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 135 | ウイントローブ管 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 136 | 縦型滅菌器 | ○ | | | | | | | | | | × | | | × | | |
| 137 | 分光光度計 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 138 | 比重計 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 139 | 臨床屈折計 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 140 | 恒温水槽 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 141 | 小型容器用ミキサー | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 142 | ヘマトクリット遠心分離機 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 143 | ヘマトクリット用毛細管 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 144 | マグネティックスターラ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 145 | ピペット洗浄乾燥器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 146 | pH計 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 147 | 天秤 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 148 | ふ卵器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 149 | 検査室用滅菌器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 150 | 蒸留水製造装置 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 151 | 生物顕微鏡 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | | |
| 152 | 薬品棚 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 153 | アスピレータ(メタル吸引器) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 154 | 目安目盛付ビーカー(100mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 155 | 目安目盛付ビーカー(200mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 156 | 目安目盛付ビーカー(500mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 157 | 試薬ビン(1000mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 158 | 試薬ビン(100mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 159 | 試薬ビン(2000mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 160 | 試薬ビン(250mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 161 | ピペット・ゴム球付滴瓶 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 162 | コック付自動ピュレット | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 163 | ピュレット(25mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 164 | ピュレット(50mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 165 | フラスコ用クランプ(大) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 166 | フラスコ用クランプ(中) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 167 | コルク栓 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 168 | ポリエチレンカップ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 169 | メスシリンダー(1000mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 170 | メスシリンダー(500mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 171 | メスシリンダー(100mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 172 | メスシリンダー(50mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |

表3-11 機材検討結果 (5/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | | |
|-----|----------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | |
| 173 | デシケータ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 174 | デジタルストップウォッチ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 175 | 三角フラスコ (300mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 176 | ろ過瓶 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 177 | ろ過瓶、磁器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 178 | ろ過紙 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 179 | 三角フラスコ (1000mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 180 | 三角フラスコ (500mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 181 | ホースバンド | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 182 | スクリュウ瓶の蓋 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 183 | モールピンチコック | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 184 | ホフマンピンチコック | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 185 | メスピペット (中間目盛、1mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 186 | メスピペット (中間目盛、2mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 187 | メスピペット (中間目盛、5mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 188 | 全量ピペット (10mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 189 | 丸型規格ビン (100mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 190 | 丸型規格ビン (300mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 191 | ビューレット立て | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 192 | ガラス棒 (6mmΦ x 1.5M) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 193 | 吸引用ゴム管 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 194 | スクリュウ瓶、蓋付 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 195 | シリコンチューブ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 196 | 駒込ピペット (10mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 197 | 駒込スポイト | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 198 | ストッパー、コルク | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 199 | ステンレス製試験管立て | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 200 | リップ付試験管 (21Φ 200 mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 201 | リップ付試験管 (16.5mm Φ) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 202 | リップ付試験管 (18mm Φ) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 203 | 温度計 (0~100℃) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 204 | 温度計 (0~200℃) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 205 | ポリエチレン洗浄ビン (500mL) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 206 | 試験管挟み | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 207 | アルコールランプ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 208 | ワイヤーゲージ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 209 | ピペットバルブ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 210 | ロート | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| 211 | アセチルアセトン | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 212 | 酢酸 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 213 | アセトン | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 214 | 水酸化アンモニア | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 215 | ベンゼン (ベンゾール) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × |

表3-11 機材検討結果 (6/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | |
|-----|-------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L |
| 216 | プロモクレゾールグリーン | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 217 | プロモクレゾールブルー | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 218 | 四塩化炭素 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 219 | クロロホルム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 220 | クレゾールレッド | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 221 | エタノール (エチルアルコール) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 222 | エタノール (エチルアルコール) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 223 | アセト酢酸エチル | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 224 | 酢酸エチル | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 225 | ヘキサン | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 226 | 塩酸 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 227 | メタノール (メチルアルコール) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 228 | メチルブルー (ポアルエブルー) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 229 | メチルレッド | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 230 | モレキュラーシーブ | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 231 | N-ブタノール | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 232 | N/10 塩酸 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 233 | N/10 水酸化ナトリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 234 | 硝酸 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 235 | サルチル酸フェニル | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 236 | フェノールレッド | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 237 | フェノールフタレイン | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 238 | リン酸 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 239 | 塩化白金カリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 240 | 炭酸カリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 241 | 水酸化カリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 242 | ヨウ素酸カリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 243 | ヨウ素酸カリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 244 | ピリジン (アザベンゼン) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 245 | シリカゲル、中粒 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 246 | 炭酸ナトリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 247 | 水酸化ナトリウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 248 | 次亜塩素酸カルシウム | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 249 | 濃硫酸 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 250 | チモールブルー | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 251 | トルエン (メチルベンゼン) | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 252 | トリエチルアミン | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 253 | リン酸トリエチル | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 254 | キリレン | ○ | | | | | | | | | | × | | | | |
| 255 | 実験台 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 256 | 流し台 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 257 | 視聴覚教室 | ○ | | | | | × | × | × | × | | | | × | | |
| 258 | 透明人体模型 (回転式台付、男子) | ○ | | | | | × | × | × | × | | | | × | | |

表3-11 機材検討結果 (7/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | |
|-----|---------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L |
| 259 | 透明人体模型 (回転式台付、女子) | ○ | | | | | × | × | × | × | | | × | | | |
| 260 | ビデオ用リモートコントローラ | ○ | | | | | × | × | × | × | | | × | | | |
| 261 | 100インチスクリーン付ビデオ台 | ○ | | | | | × | | × | × | | | | | | |
| 262 | TV/ビデオセット | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 263 | 説明テープ (英語) | ○ | | | | × | | × | | | | × | | | | |
| 264 | 医学教育用ビデオテープ | ○ | | | | | | | | | | × | | | × | |
| 265 | スライドプロジェクター (A) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 266 | スライドプロジェクター (B) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 267 | オーバーヘッドプロジェクター | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 268 | 複写機 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 269 | ファクス | ○ | | | | × | × | | × | | | | | | | |
| 270 | ビデオデッキ | ○ | | | | | × | | | | | × | | | × | |
| 271 | 14インチカラービデオモニタ | ○ | | | | | × | | | | | × | | | × | |
| 272 | ビデオカメラ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 273 | コンピュータ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 274 | レーザープリンタ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 275 | デスクトップパブリッシュ | ○ | | | | × | × | | | | | | | | | |
| 276 | オフセット印刷システム | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 277 | ポインター | ○ | | | | × | × | | | | | | | | | |
| 278 | 電動ステンシルメーカー | ○ | | | | × | × | | | | × | | | | | |
| 279 | PAシステム | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 280 | 会議室用PAシステム | ○ | | | | × | × | | | × | | | | | | |
| 281 | 移動式スクリーン (A) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 282 | 移動式スクリーン (B) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 283 | チャートスタンド | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 284 | 掛図 (A) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 285 | 掛図 (B) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 286 | 黒板 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 287 | 移動用黒板 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 288 | 掲示板 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 289 | オーディオカセットレコーダ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 290 | ヘッドホン付カセットプレーヤ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 291 | デスクトップ表題付け機セット | ○ | | | | × | | | | × | × | | | | | |
| 292 | カメラ (アクセサリ付) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 293 | 英文タイプライター (PICA、手動) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 294 | 手動製本器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 295 | ペーパーカッター | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 296 | ステーブラー | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 297 | 強力パンチ | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 298 | 鉛筆削り | ○ | | | | × | × | | | | | | | | | × |
| 299 | 院内通話システム | ○ | | | | | | | | | | | | | | × |
| 300 | エアコン (セパレート式) | ○ | | | | | | | | | | | | | | × |
| 301 | 扇風機 | ○ | | | | | | | | | | | | | | × |

表3-11 機材検討結果 (8/8)

| No. | 機材名 | 当初 要請 | 追加 要請 | 最終 採用 | 不採用の理由 | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------------|----------|----------|----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | | |
| 302 | スチール製キャビネット | ○ | | | | | | | | | | | | | | | × | |
| 303 | 会議室用家具 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 304 | 輪転機セット | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 305 | ソーラー電卓 (100DIG.) | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 306 | ガンタッカー | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 307 | ディーゼル発電機 | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 308 | スクールバス (ディーゼル、30席) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 309 | トラック (ディーゼル) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 310 | カタログキャビネット | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 311 | ディスプレイラック | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 312 | ステール棚 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 313 | メタルブックトラック | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 314 | カタログガイド | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 315 | 辞書スタンド | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 316 | カードソータ | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 317 | 独習用机 | ○ | | | × | × | | | | | | | | | | | | × |
| 318 | LL用機材 | ○ | | | × | × | | | × | × | | | × | | | | | |
| 319 | 助産婦キット | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 320 | 保健所の看護婦キット | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 321 | 血圧計 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 322 | 聴診器 (成人用) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 323 | 聴診器 (胎児用) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 324 | 器械台 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 325 | ステンレス製縦型滅菌器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 326 | ナソガソトリック管 | ○ | | | | | | | | | | × | | | | | × | |
| 327 | ベッドパン | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 328 | 体重計 (小児用) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 329 | 身長計 (小児用) | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 330 | 体重計 (成人用) | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 331 | 身長計 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 332 | オープン | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 333 | 冷蔵庫 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 334 | 滅菌器 | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 335 | 鉗子セット | | ○ | ◎ | | | | | | | | × | | | | | × | |
| 336 | カテーテルセット | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 337 | 家具 | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |